

【第2章】
全国アントレpreneuri^{シップ}
人材育成プログラム

【第2章】 全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

■受講機会創出に向けた全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの検討

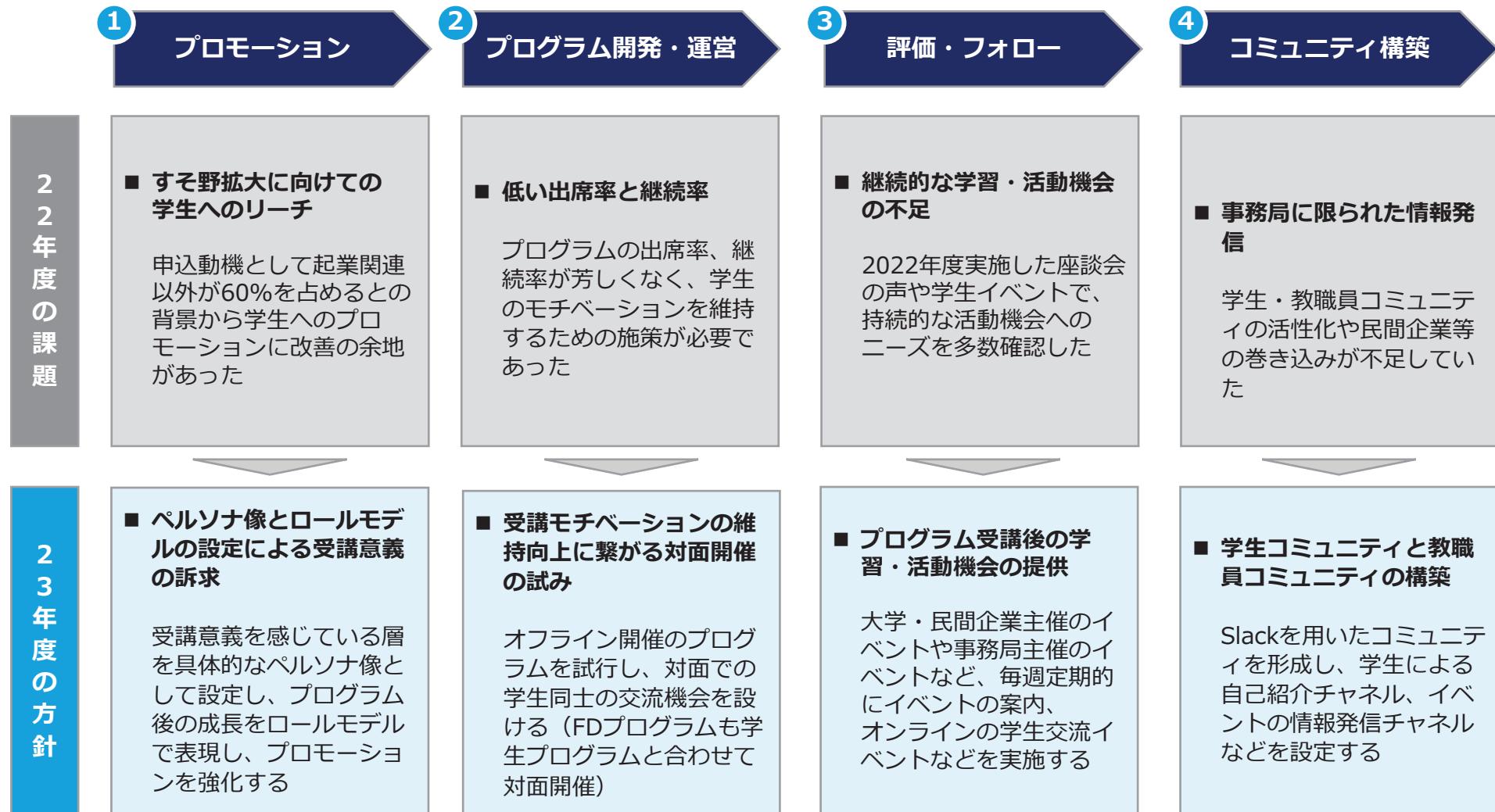
5.1 エグゼクティブサマリ

5.2 2023年度取組結果の詳細

2023年度方針

- ✓ 2022年度課題からの改善を目指して、プロモーション、プログラム開発・運営、評価、コミュニティ構築の観点から2023年度の取組方針を設定した

2022年度の課題を踏まえた2023年度の方針



2023年度全国プログラム-学生プログラム

✓ オフラインプログラムとして、全国の学生に対し2023年12月23日、24日に開催した

学生

FD

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
事業背景・目的	<p>今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレプレナーシップ教育を推進しています。</p> <p>アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、すべての人が身につけるべき資質であると考えています。</p>
募集対象	<p>全国の大学生・大学院生・高等専門学校生 (高校生も数十名程度参加可能)</p> <p>定員180名程度</p>
開催形式	東京会場でのオフライン開催 (東京都千代田区丸の内三丁目3番1号新東京ビル)
受講料金	無料（交通費・宿泊費等は自己負担）
その他	全日程を参加した受講者に受講修了証発行
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/

プログラム概要	ビジネスでの起業テーマコース
	<p>2023年 12月23-24日 1日目10:00-19:00、 2日目9:30-18:00</p>
<p>ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つスキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ 今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人を対象とした授業</p> <p>講師：東京大学 馬田隆明先生</p>	

公式WEBサイト

Program 全国プログラム／学生向け

2023年度 プログラム概要

ビジネスでの起業をテーマに、特に起業初期において必要なスキルと行動法を実践しながら、アントレプレナーシップを身に付けるプログラム
グループワークを中心に、事業化アイデアをチームで検討・決定し、それを充り込むまでの計画とその間の具体的行動について学習します

主な内容

- ・事業化アイデアの決定
- ・行動計画の策定
- ・顧客インタビューを通じた検証
- ・MVP (Minimum Viable Product) の開発
- ・セールスの準備及び実施
- ・ピッチ準備及びピッチ
- ・チームでの振り返り
- など

プログラムの期待効果

何か新しいことを始めるときに役立つ基礎的な手法（仮説検証、顧客インタビュー、プロトタイプ開発、セールスなど）を一連の流れに沿って経験します

2023年度全国プログラム-学生プログラム

- ✓ 会場は机と椅子が並んだ一般的な教室でなく、自由に交流しやすく、モチベーションも高まるような会場を用意した

学生

FD

講師による講義



参加者の集合写真（全国各地から学生が参加）



学生のグループワーク



2023年度全国プログラム-FDプログラム

- ✓ FDプログラムは、今後自大学でアントレ教育を展開できる教職員に対して、2023年12月末（学生プログラムと同時期）に開催した

学生

FD

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム -FDプログラム
事業背景・目的	全国アントレプレナーシップ教育プログラムで実施した内容を、全国各教育機関でアレンジしながら展開できるようにする目的とします。（※ FDとは Faculty Development の略です） 多くの学生がアントレプレナーシップを身に着けるには、アントレプレナーシップを教えられる教員も増えなければなりません。本講義(FD)を通して、アントレプレナーシップを伝えられる方を増やしていきたいと思っています。
募集対象	自学で今後教育プログラムを展開できる大学等の教職員 定員30名程度
開催形式	東京会場でのオフライン開催 (東京都千代田区丸の内三丁目3番1号新東京ビル)
受講料金	無料（交通費・宿泊費等は自己負担）
その他	学生プログラムの授業参観（一部授業体験）を実施
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/

プログラム概要
事前講義 @Zoom 2023年 12月20日 17:00-18:30
授業参観@会場 2023年 12月23-24日 1日目10:00- 19:00、 2日目9:30- 18:00
事後講義@会場 2日目14:40- 16:10

本FDは、事前・事後の講義と授業参観（一部体験）を通して、各教育機関において同講義を提供するための考え方やノウハウを身に着けるためのものです

1. 事前講義では、全国アントレプレナーシップ教育講義の設計意図を説明します。
2. 授業参観を通して、実際の授業の様子をご覧いただきます。
3. 事後講義では、授業実施の様子を振り返り、授業を行うための設計の練習を実施します。
FD終了後、各教育機関において同講義を展開いただくための資料セットを提供します。

講師：東京大学 馬田隆明先生 富田佳奈先生

公式WEBサイト

Program 全国プログラム／教職員向け

教職員プログラムの目標

受講した先生方が、プログラム終了後に提供した資料を使用、またはアレンジし、自分の学校で2～3日の間様のプログラムが実践できるようになることを目指します

実施時期・場所・形式

事前講義の内容：12月14日～20日の間にオンライン（Zoom）で開催
Zoomには、PCやタブレットなど文字入力ができるデバイスでの参加が必要です
事前講義の目的：
①アントレプレナーシップ教育の意義と理解する
②プログラムの構成や要素を理解する
③プログラムを実施するための環境で授業を観察できるようになる
事前講義：(毎日までに確認する範囲やHP)も掲示します
授業会場：2023年12月23日（土）、24日（日）の2日間でDeloitte Tohmatsu Innovation Park*（学生と同じ会場）にて授業実施
事後講義：24日（日）14:30-18:00の間に90分程度実施。
*Deloitte Tohmatsu Innovation Park：東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル8F (<https://park.deloitte.jp/>)

2023年度全国プログラム-FDプログラム

- ✓ 学生プログラムを実施する会場とは別の会場でFD講義を行いつつ、学生プログラムの実施会場での参観等を組み合わせながら実施した

学生

FD

講師による講義（サブ会場）



FD参加者によるワークショップ（サブ会場）



FD参加者による学生グループワークの見学（メイン会場※）



※FD参加者はメイン会場とサブ会場を行き来し、学生の活動の見学、教員間によるワークショップ等に参加した

2023年度全国プログラム-学生プログラム

- ✓ プログラム出席率・修了率ともに高い水準にあり、満足度は高い評価を得た。持続的な学習と交流を求めて、フォローアップイベント、コミュニティにおいても多数の参加が見られた

2023年度の取組の主な成果

全国プログラム申込者数
(定員180名程度)

354名

全国プログラム出席率

81%

全国プログラム修了率

89%

全国プログラム満足度
(5段階中の5,4の回答率)

学生プログラム

85%
FDプログラム

89%
FDプログラム

フォローアップイベント
申込者数

602名

Slackコミュニティ
参加者数

学生コミュニティ

401名
FDコミュニティ

138名
FDコミュニティ

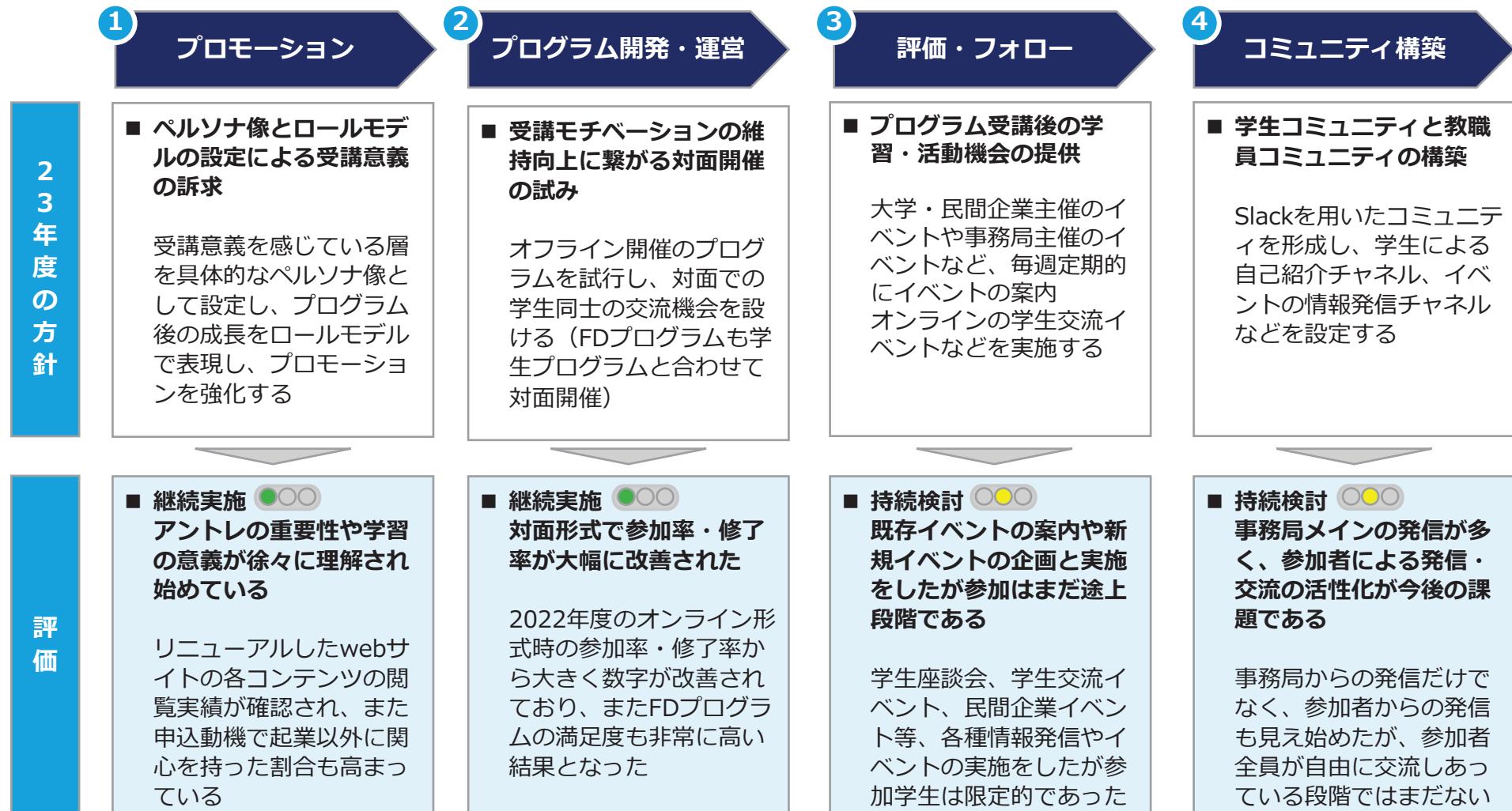
比率は、小数点以降四捨五入

2023年度の取組評価

- ✓ プロモーション、プログラム開発・運営についてはポジティブな結果である一方、評価・フォロー、コミュニティ構築は課題が見え、2024年度に向け改善策の検討が必要である

2023年度の取組に対する評価（総評）

繼続実施 繼続検討 要見直し



改善の方向性

- ✓ プロモーション、プログラム開発・運営は継続実施しつつ精緻化を図る。一方で、評価・フォローは学生の発達段階に合わせたイベント検討や、コミュニティ構築は学生の関心に沿ったチャネル作り等、2024年度はより効果的な改善策を検討する

改善の方向性

継続実施 継続検討 要見直し

1

プロモーション

評価

■ 継続実施

アントレの重要性や学習の意義が徐々に理解され始めている

リニューアルしたwebサイトの各コンテンツの閲覧実績が確認され、また申込動機で起業以外に関心を持った割合も高まっている

2

プログラム開発・運営

■ 継続実施

対面形式で参加率・修了率が大幅に改善された

2022年度のオンライン形式時の参加率・修了率から大きく数字が改善されており、またFDプログラムの満足度も非常に高い結果となった

3

評価・フォロー

■ 持続検討

既存イベントの案内や新規イベントの企画と実施をしたが参加はまだ途上段階である

座談会、学生交流イベント、民間企業イベント等、各種情報発信やイベントの実施をしたが参加学生は限定的であった

4

コミュニティ構築

■ 持続検討

事務局メインの発信が多く、参加者による発信・交流の活性化が今後の課題である

事務局からの発信だけでなく、参加者からの発信も見え始めたが、参加者全員が自由に交流しあっている段階ではまだない

改善の方向性

■ アントレの重要性や学習の意義等を継続的に発信

学生が関心を持つ分野の著名起業家の紹介等、コラム記事を継続に発信するとともに、同年代のホールモデル記事を通じて、アントレの重要性・意義に共感してもらう

■ 学生・FDの対面プログラムを継続的に開催

学生プログラムは参加率・修了率を引き続き確保の上、東京以外の地域での開催を検討し、参加の間口を広げる
FDプログラムは引き続き見学・ワークを通じて、各地の教育者を育成する

■ 学生の発達段階に合わせたイベント案内・企画の在り方を検討

アントレプレナーシップの発達段階に合わせて、各段階ごとの情報発信を検討する
学生による自発的なイベントや定期的な交流イベント開催等を検討する

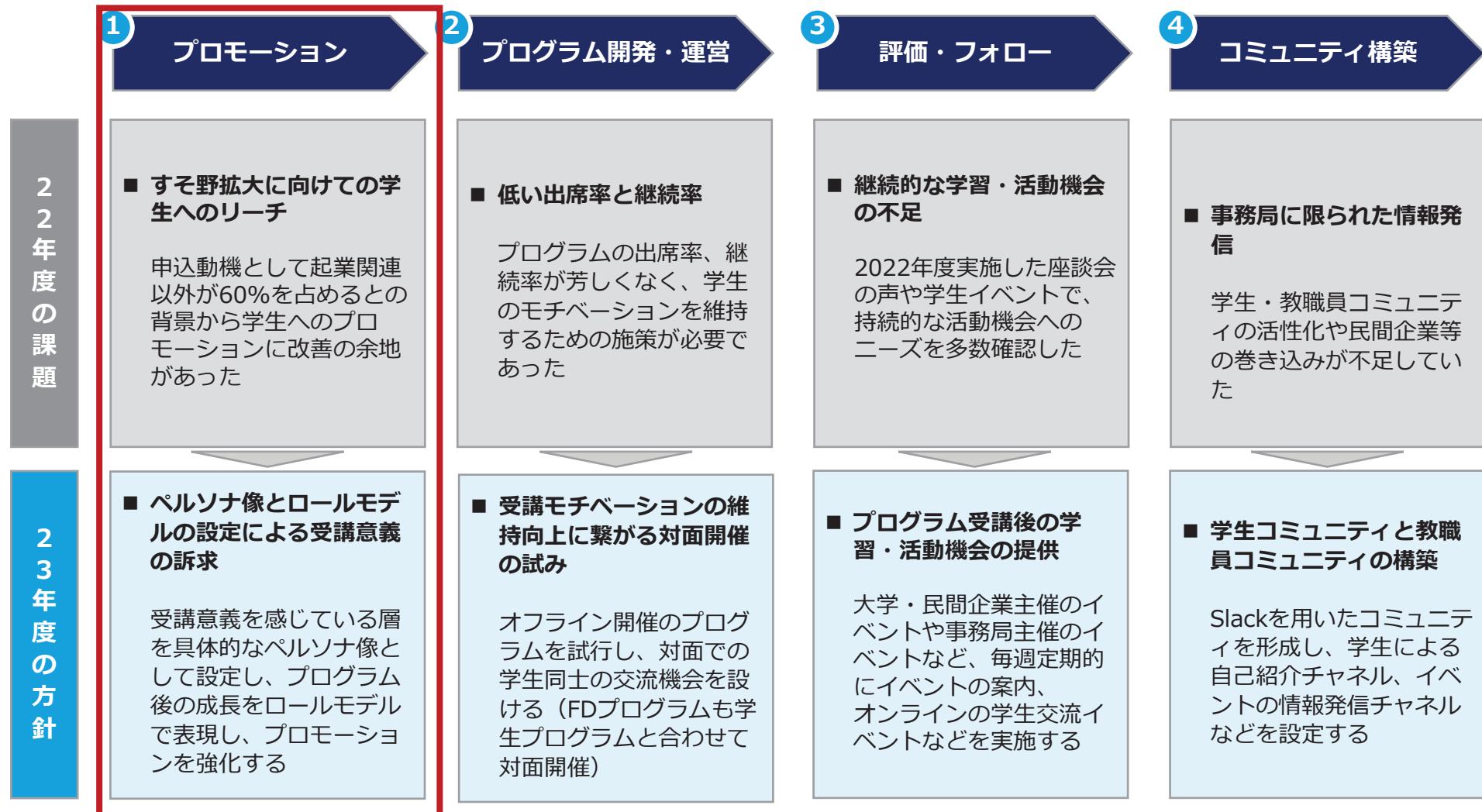
■ 主体的な情報発信・交流を促すコミュニティ作りを検討

学生の関心テーマに応じた交流チャネル作成、学生間の情報発信の促しなど、交流活性化に向けた施策を検討する

2023年度プロモーション方針

- ✓ 2022年度課題からの改善を目指して、プロモーション、プログラム開発・運営、評価、コミュニティ構築の観点から2023年度の取組方針を設定した

2022年度の課題を踏まえた2023年度の方針



プロモーションにおける取組結果

- ✓ Webサイトの全体刷新、ターゲット学生層へのリーチを通じて、プロモーションを実施した

取組結果



視点		取組事項※	取組結果
運営	学生等		
1 WEBサイトの全体刷新	認知・関心	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の意味合いを分かりやすく解説 アントレの定義や身につく力について、イラストや文書でのハイライトを用いながら、分かりやすく解説 ■ ロールモデルを設定した受講意義訴求 ■ 文科省担当者及び講師による プログラム説明動画の作成・公開 	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム開催月のサイトは月間10,000PV（ページビュー）達成 12月・1月は月間10,000PVを達成しており、総ユーザー数14,380があった（PV: Webサイトのアクセス数の単位の一つで、閲覧者のWebブラウザにページが表示された延べ回数） ■ 取材動画再生回数1,732回 共感が得られやすいロールモデルを設定し、取材動画は3件合計1,732回※の閲覧があった ■ メッセージ動画再生回数959回 プログラムへの理解を深め、受講者へのメッセージを通じた動機づけを図り、2件の動画合計959回※の閲覧があった ■ 19%の学生はコミュニティ・他者からの紹介と回答 学生コミュニティ・団体へのプログラム周知を行い、申込者のうち、6%は学生コミュニティからの紹介、13%が他人の推薦であった ■ 「プログラム内容が面白そう」と考えていた学生は221名 アントレ教育に無関心な学生層をペルソナとして設定した結果、「実践的な内容が面白そう」と考えて申し込んだ学生が221名いた ■ チームエントリーは6チーム 5人1チームによるチームエントリーを導入し、友人や同級生を巻き込んでだ申込が6チーム、計30名であった ■ 民間企業・団体から17名の見学申込みがあった 教育・人材関連企業・金融機関等、計17機関から全国プログラムの見学申込があった
	ターゲット層へのリーチ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生コミュニティと連携した認知活動 ■ ターゲット学生のペルソナ像の設定と関心テーマを踏まえた認知活動 ■ 学生が友人と参加できるチームエントリー制度の導入 ■ 民間企業等へのプログラム見学機会の提供 	

次ページ以降は、上記取組のうち、代表的な取組のみをエグゼクティブサマリーとして記載

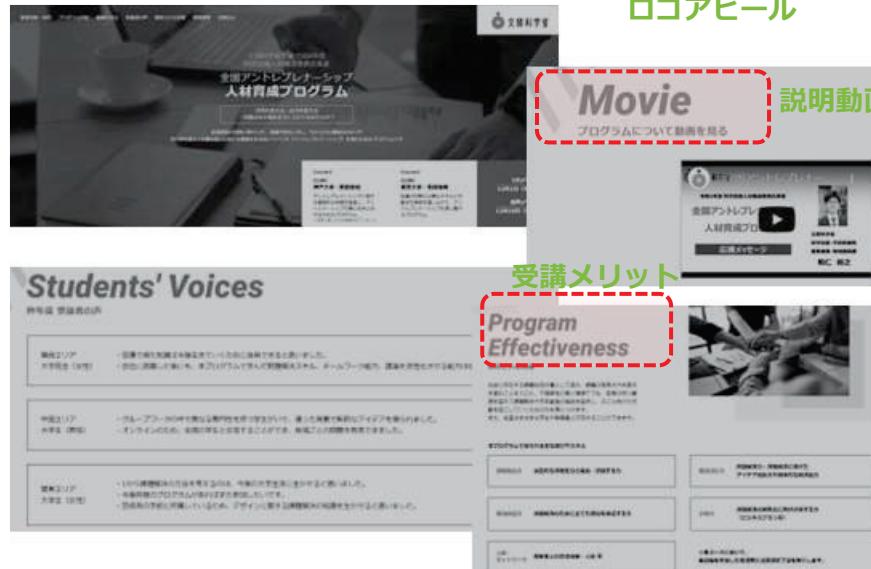
※2024年3月12日時点の再生数

WEBサイト刷新

- ✓ Webサイトの全体刷新を行い、デザインをより明るくしたとともに、プログラム以外にロールモデルや各地域での取組、関連教育動画等、コンテンツを大幅に拡充した

Webサイトの全体刷新

2022年度Webサイト



- 全国プログラムを主なコンテンツとして掲載
- 緑をベースにしたさわやかなデザインを採用
文部科学省主催が主催していることがすぐ分かるよう
に、ページ上段のロゴを設置
- 参加者の声を記載し、どんな内容だったのか、何がよ
かったのかを記載
- プログラムを通じ得られる経験・メリットを記載

プロモーション

プログラム開発・
運営

評価・フォロー

コミュニティ構築

2023年度Webサイト



「アントレプレナーシップ」ってなに？

アントレプレナーシップとは。

様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず

自ら身を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神です。

多くの仕事がAIやロボットに置き換わっていく社会において。

どのように生きるかを考え、実行する力を習得することがこれまで以上に必要

になってきています。

関心醸成に向けた説明



- 動的サイトとして全体刷新
- カラフルで明るいデザインを採用し、イラストを用いながらアントレ教育意義等を説明
- 全国プログラムのみならず、ロールモデル取材や各地域での取組、関連教育動画等のコンテンツを補充

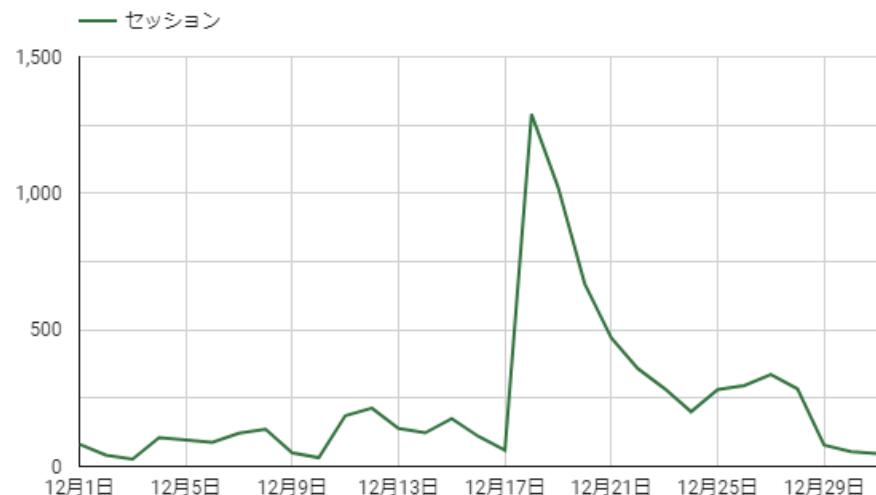
プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ KPIである月間10,000PV※に近い数値を記録しており、サイト刷新の効果が出ている

アクセス数（セッション数）の分析



12月のアクセス数とアクセスユーザー数



アクセス数：7,454 / 総ユーザー数：5,388

1,2月のセッション数とアクセスユーザー数



アクセス数：12,193 / 総ユーザー数：8,992

WEBサイト
刷新効果

- 全国プログラム開催月（12月：馬田先生、1月：山川先生）付近については、目標値の月間10,000PVに近いアクセス数を記録しており、サイト刷新の効果が表れている
- ※PVはサイトに流入すると1カウント、サイト内ページに遷移すると2カウント、セッションはサイトに流入すると1カウント、サイト内遷移はカウントしないことから、セッション数はPV数よりも小さい数値となる傾向

※Webサイトのアクセス数の単位の一つで、閲覧者のWebブラウザにページが表示された延べ回数

プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ 大規模イベント開催月以外のアクセス数は月間3,000~4,000程度であり、月間10,000PVに達していない

アクセス数（セッション数）の分析



9~11月のアクセス数とアクセスユーザー数



アクセス数：13,789 / 総ユーザー数：9,101

3月のアクセス数とアクセスユーザー数



アクセス数：3,162 / 総ユーザー数：2,477

今後の打ち手

- イベント開催月以外のセッション数は3,000~4,000程度となっており、セッション数がPV数より低く算出されることを差し引いてもKPIである10,000PVには達していない
- イベントやコラム記事の投稿頻度を増やすことで継続的な流入を確保する必要があるのではないか

プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ Direct（直接流入）が最も多く、大学等からの案内に記載されたURLからの流入同線が太い
- ✓ Organic Search（自然検索）での流入もDirectの6割弱確保している

チャネル別の流入動向



セッションのデフォルト チャネルグループ	セッション ▾	総ユーザー数	エンゲージのあつたセッション数	エンゲージメント率
Direct	16,676	11,788	8,883	53.27%
Organic Search	9,689	5,619	5,987	61.79%
Referral	4,872	3,494	2,967	60.9%
Organic Social	2,332	2,000	1,061	45.5%
Unassigned	49	47	0	0%
Email	40	32	21	52.5%
Paid Search	14	6	2	14.29%
Organic Video	1	1	1	100%

1 - 8 / 8 < >

プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ 「アントレプレナーシップ」や「アントレ教育」等のキーワード検索によりHPが表示されているが、クリック率は低い状況
- ✓ 一方、「社会課題解決」に関連するキーワード検索でのHP表示はほとんどされていない

検索キーワード

プロモーション

プログラム開発・運営

評価・フォロー

コミュニティ構築

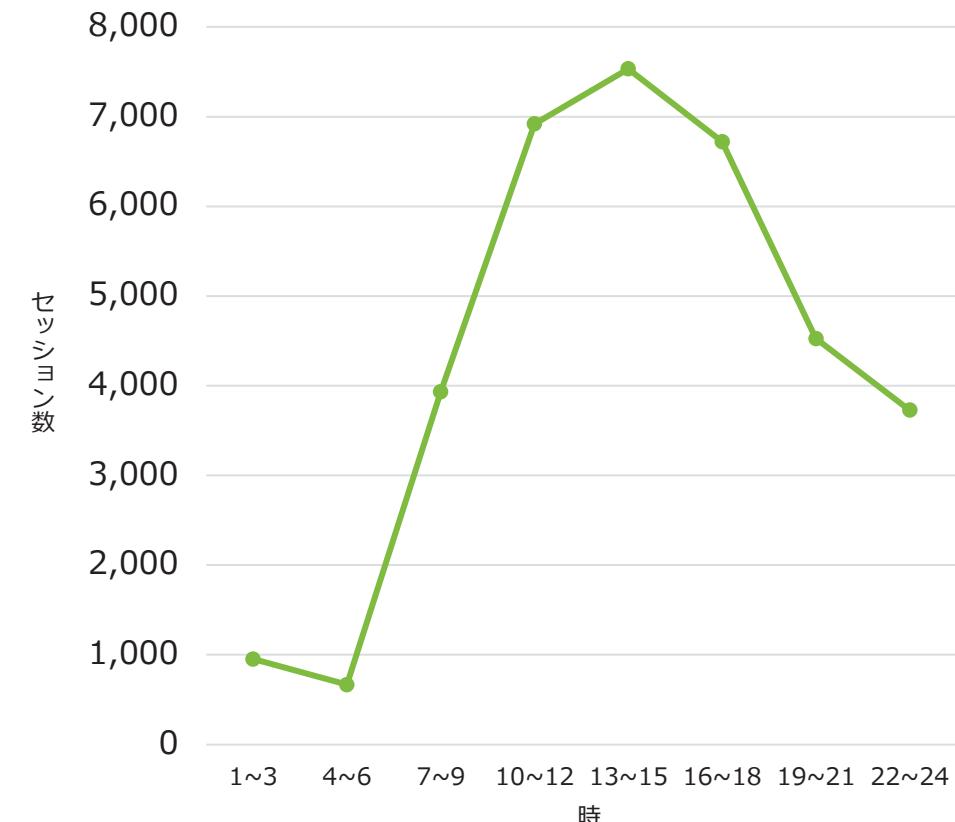
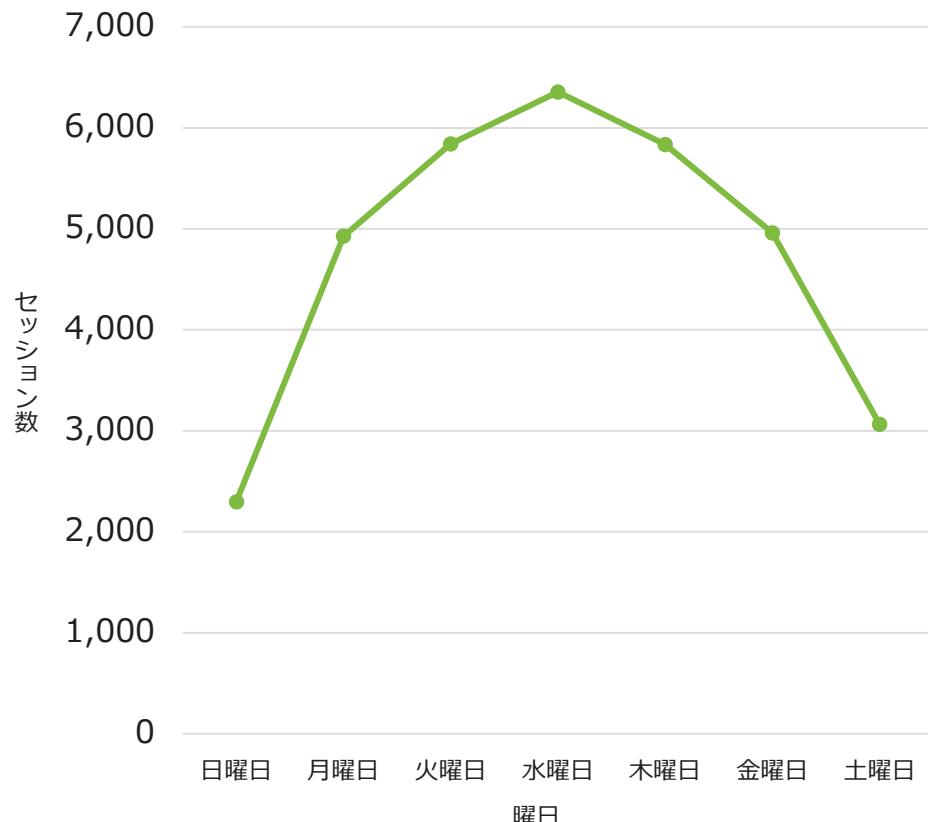
Query	Impressions ▾	Url Clicks	URL CTR
アントレプレナーシップ	53,588	322	0.6%
アントレプレナーシップ教育	11,034	695	6.3%
文部科学省	6,812	0	0%
アントレプレナー	6,090	14	0.23%
文科省	2,206	0	0%
全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム	2,065	384	18.6%
今井悠介	1,589	26	1.64%
人材育成プログラム	1,443	13	0.9%
アントレナーシップ	1,327	8	0.6%
育成プログラム	979	6	0.61%
アントレプレナーシップとは	953	6	0.63%
アントレプレナー教育	846	20	2.36%

1 - 100 / 573 < >

プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ アクセス数は水曜日がピークとなっており、週の始まりや終わりおよび土日のアクセス数は少ない
- ✓ 13~15時はセッションのピークとなっている

アクセスの傾向



今後の打ち手

- WEBサイトへの流入は週ごとでは水曜日、日ごとでは13~15時がピークとなっており、WEBサイトは平日の日中に閲覧されることを念頭に置き、プロモーションや情報発信を行う必要がある

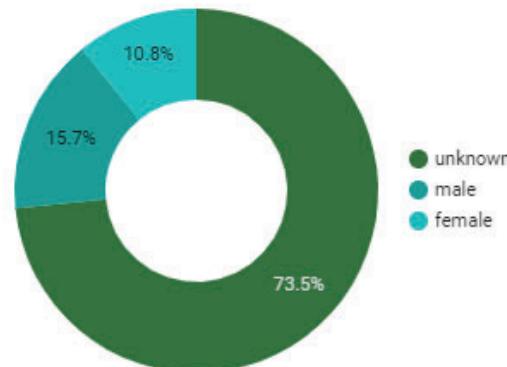
プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ 男性からのセッション数が女性に比べてやや多くなっている
- ✓ 年齢層では、ターゲット層である18~24歳を中心にセッションを確保できている状況

ユーザー属性（1/2）



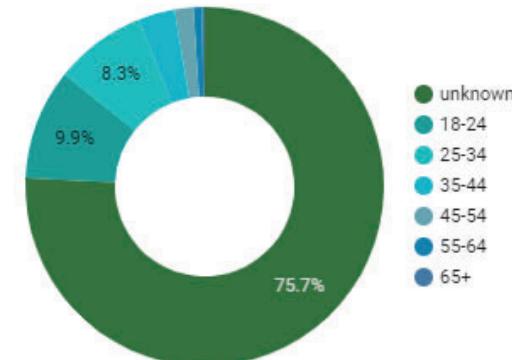
性別ごとのセッション数



性別	セッション数
1... unknown	24,787
2... male	5,305
3... female	3,650

1 - 3 / 3 < >

年齢ごとのセッション数



年齢	セッション数
1... unknown	25,587
2... 18-24	3,359
3... 25-34	2,811
4... 35-44	1,112
5... 45-54	568
6... 55-64	262

1 - 7 / 7 < >

今後の打ち手

- 第三層の女性に響くプログラム、記事コンテンツの拡充を図る必要があるのではないか
- そもそも男性が多い対照群に対しアプローチしている可能性があり、女子大や相対的に女性の比率が高い大学、学部へのアプローチを検討する必要があるのではないか

プロモーションの観点-WEBサイト

- ✓ 東京からのアクセスが大多数となっている

ユーザー属性 (2/2)



地域	セッション	総ユーザー数	エンゲージメント率
Tokyo	12,011	7,742	55.27%
Osaka	2,233	1,608	56.25%
Hokkaido	1,428	1,122	55.95%
Kanagawa	1,390	945	59.64%
Aichi	1,200	897	61%
Fukuoka	1,122	814	59.8%
Chiba	918	761	56.97%
Hyogo	911	724	59.71%
Kyoto	894	650	53.91%
Hiroshima	823	565	59.05%
Saitama	809	596	56%

1 - 100 / 209



今後の打ち手

- 関東地域でのイベントは積極的に情報発信することで、高いエンゲージメントをキープできるのではないか
- 東京以外の地域からのアクセスを底上げする必要があり、その地域に特化したコンテンツの配信や、全国プログラムにおいてはオンライン、オンライン・オフラインのハイブリッド形式での実施を検討する必要があるのではないか

事前動画・アナウンス

- ✓ 事前動画メッセージ、メールでの周知・リマインド、Slackアナウンスを通じて、プロモーションを実施した

プログラム説明動画の公開・事前リマインドの実施

プロモーション

プログラム開発・運営

評価・フォロー

コミュニティ構築



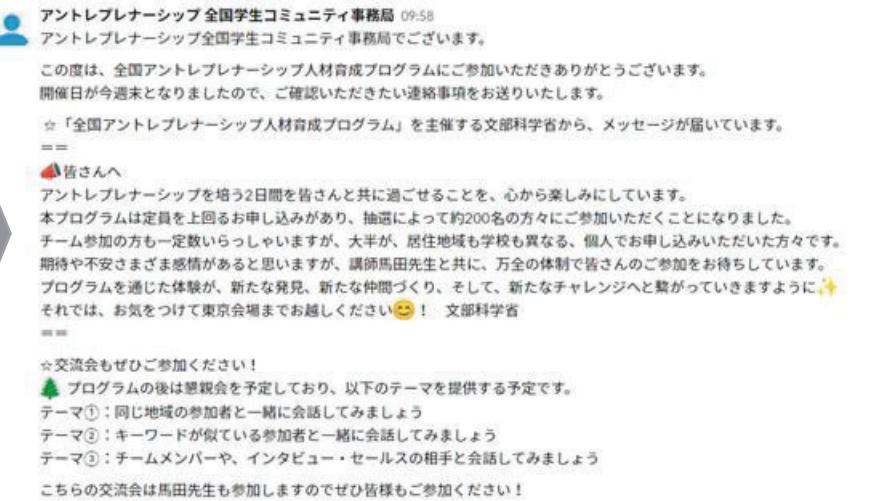
動画 メッセージ

- プログラム講師からのメッセージ
プログラムの概要や受講で得られる効果などについて事前に配信した
- 文部科学省からのメッセージ
申込のモチベーションを高めるために、プログラム会場を背景に、応援メッセージを事前に配信した



メール周知・ 事前リマインド

- プログラムのメルマガ登録者等への先行案内を行い、早期のプロモーションを図った
- また、事前に出欠確認を行い、プログラム開催1週間前、3日前、前日にそれぞれリマインドを実施



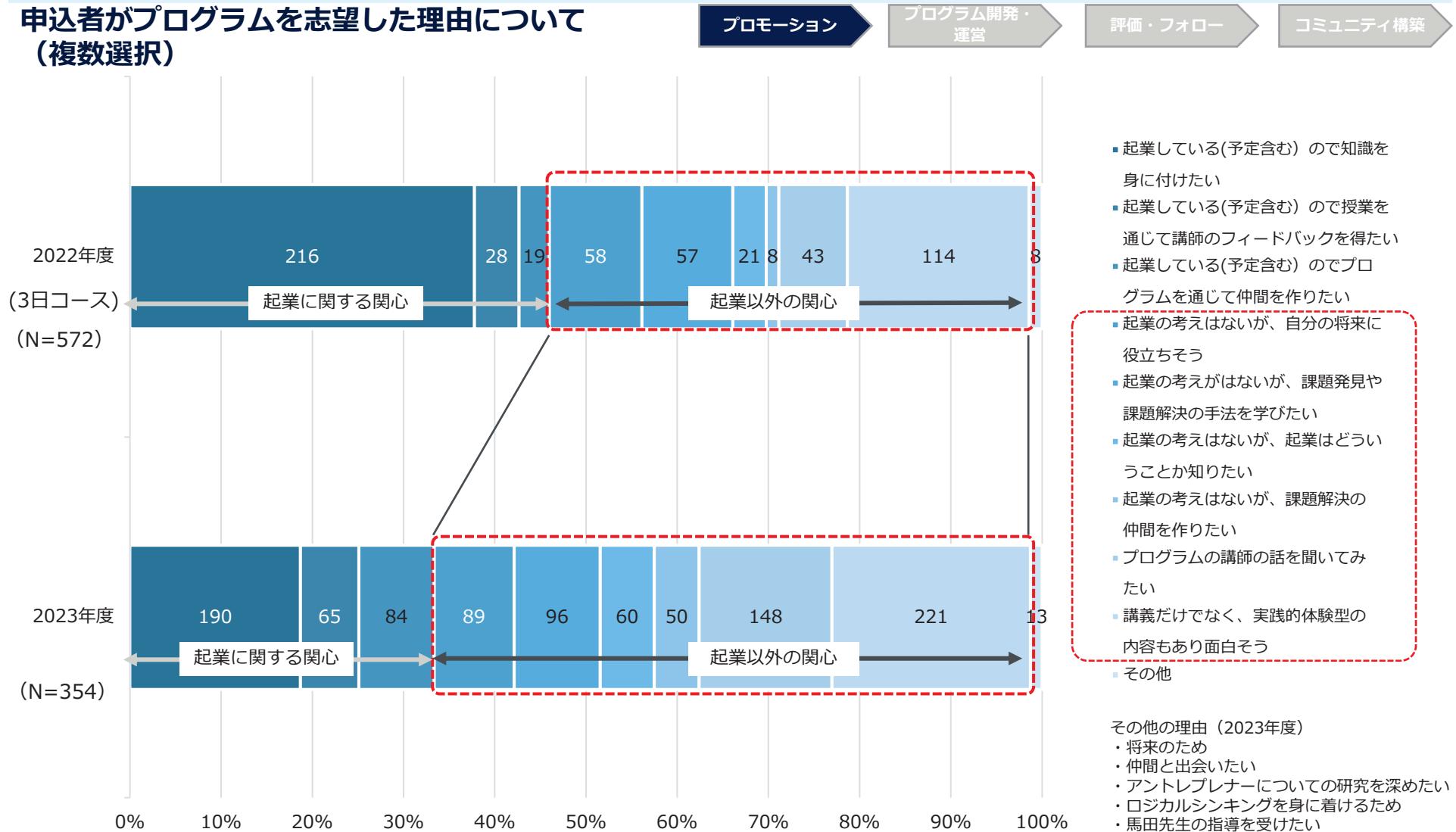
Slack アナウンス

- 参加予定の学生の出席率を高め、受講へのモチベーションを向上させるため、文部科学省よりSlackにてアナウンスを行った

申込者の志望動機の比較

- ✓ 起業以外に関心がある受講者が全体の約6割強を占めていた
- ✓ 2023年度プログラムのペルソナである第三層の学生に対するアプローチの効果的が表れているのではないか

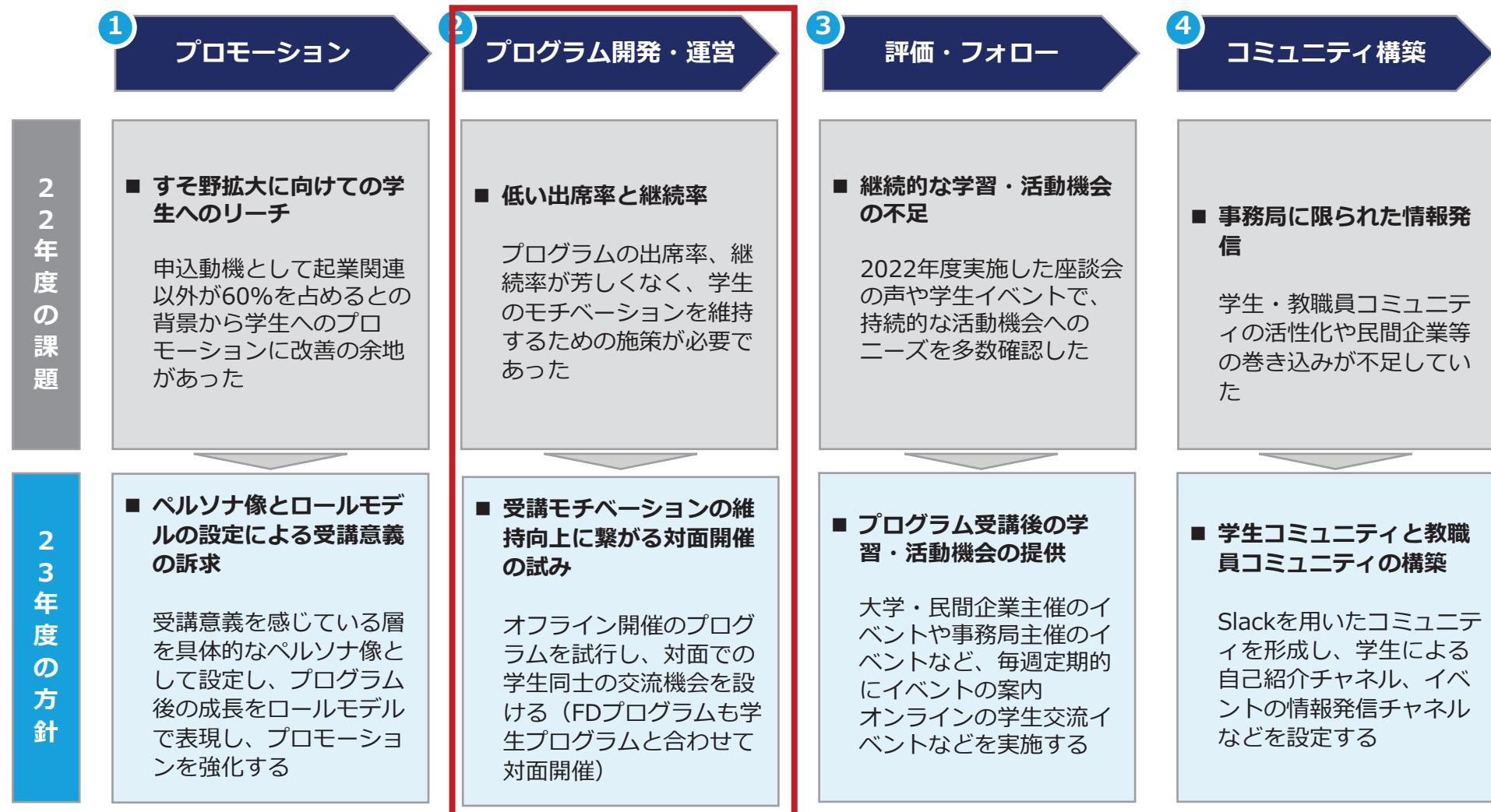
申込者がプログラムを志望した理由について (複数選択)



2023年度プログラム開発・運営方針

- ✓ 2022年度課題からの改善を目指して、プロモーション、プログラム開発・運営、評価、コミュニティ構築の観点から2023年度の取組方針を設定した

2022年度の課題を踏まえた2023年度の方針



プログラム開発・運営に関する取組結果

- ✓ 複数回の事前リマインドや交流会の実施、学生プログラムと組み合わせたFDプログラム等を実施した

取組結果



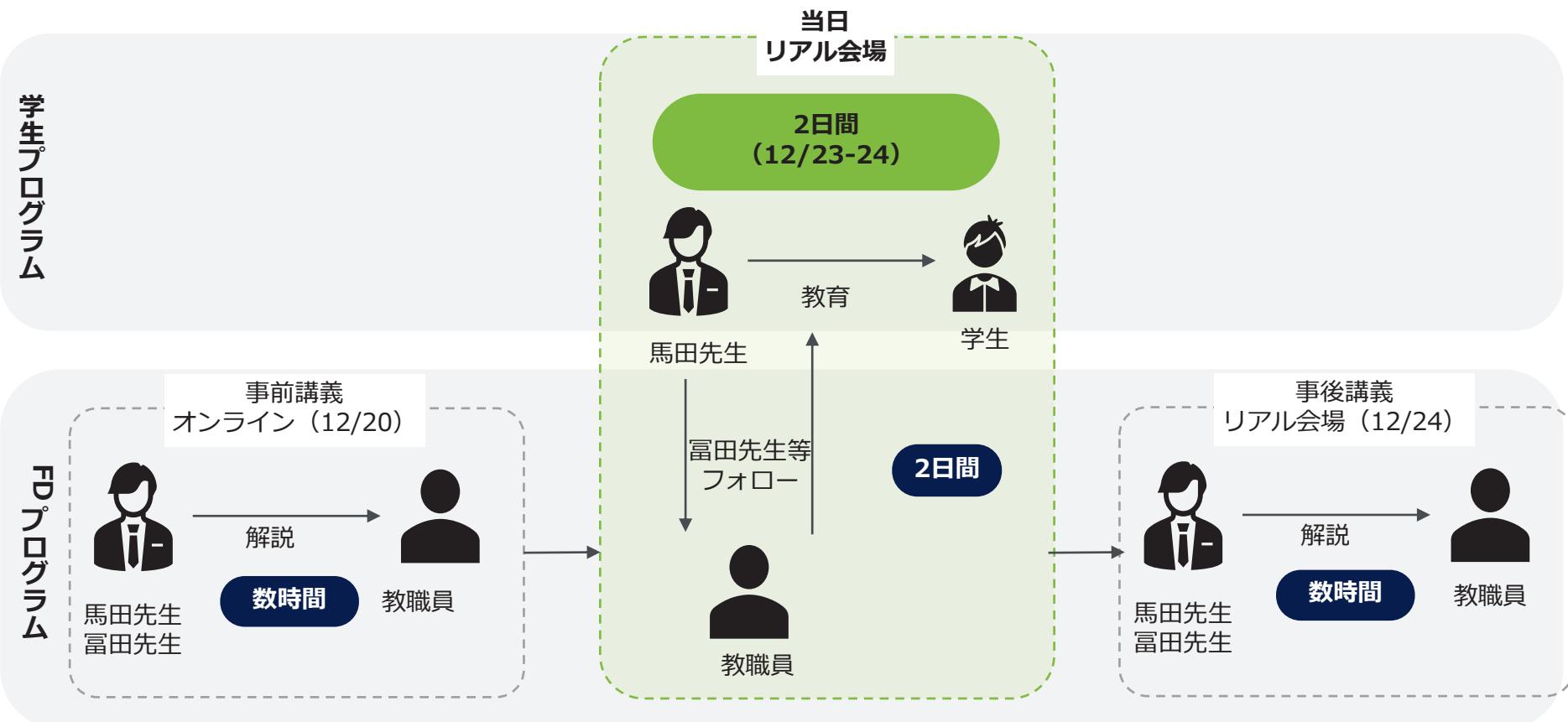
視点		取組事項※	取組結果
運営	学生等		
2 プログラム開発・運営	申込・受講	■ 出席率を高めるために事前リマインドの複数回実施	■ 出席率は2022年度と比較して37%増加した 2023年度は当選者のうち、約81%の学生が参加したのに対して、2022年度は当選者のうち、約44%の学生が参加した
		■ 出席率・継続率を高めるために、対面でのプログラムとし、またプログラム終了後も交流会を実施	■ 繼続率は約15%と2022年度と比して大きく改善 2023年度は1日目から2日目の継続率が約90%であった 2022年度の継続率は2日目91%、3日目85%（3日目と1日目で比較）
		■ スムーズな運営に向け、グループワークのチームを事前に編成し、再編成する体制も整えた	■ 総じて満足度は高かったが、会場までの労力・単位互換不可・グループワークに一部課題の声 満足度は高かったが、会場への移動にかかる時間・労力、単位互換不可、グループワーク時間等について一部から課題の声も見れた
		■ 学生プログラムとの同時開催で、実際の授業を覗きこめる形式のFDプログラムの開発と実施	■ 欠席者が少なく、再編成が発生しても迅速な対応がなされ、スムーズな運営ができた 事前に参加者に受講IDおよびグループ番号を案内し、またネックストラップにもQRコードで確認できるようにした結果、スムーズな対応がなされた

次ページ以降は、上記取組のうち、代表的な取組のみをエグゼクティブサマリーとして記載

学生プログラムとFDプログラムの関係図

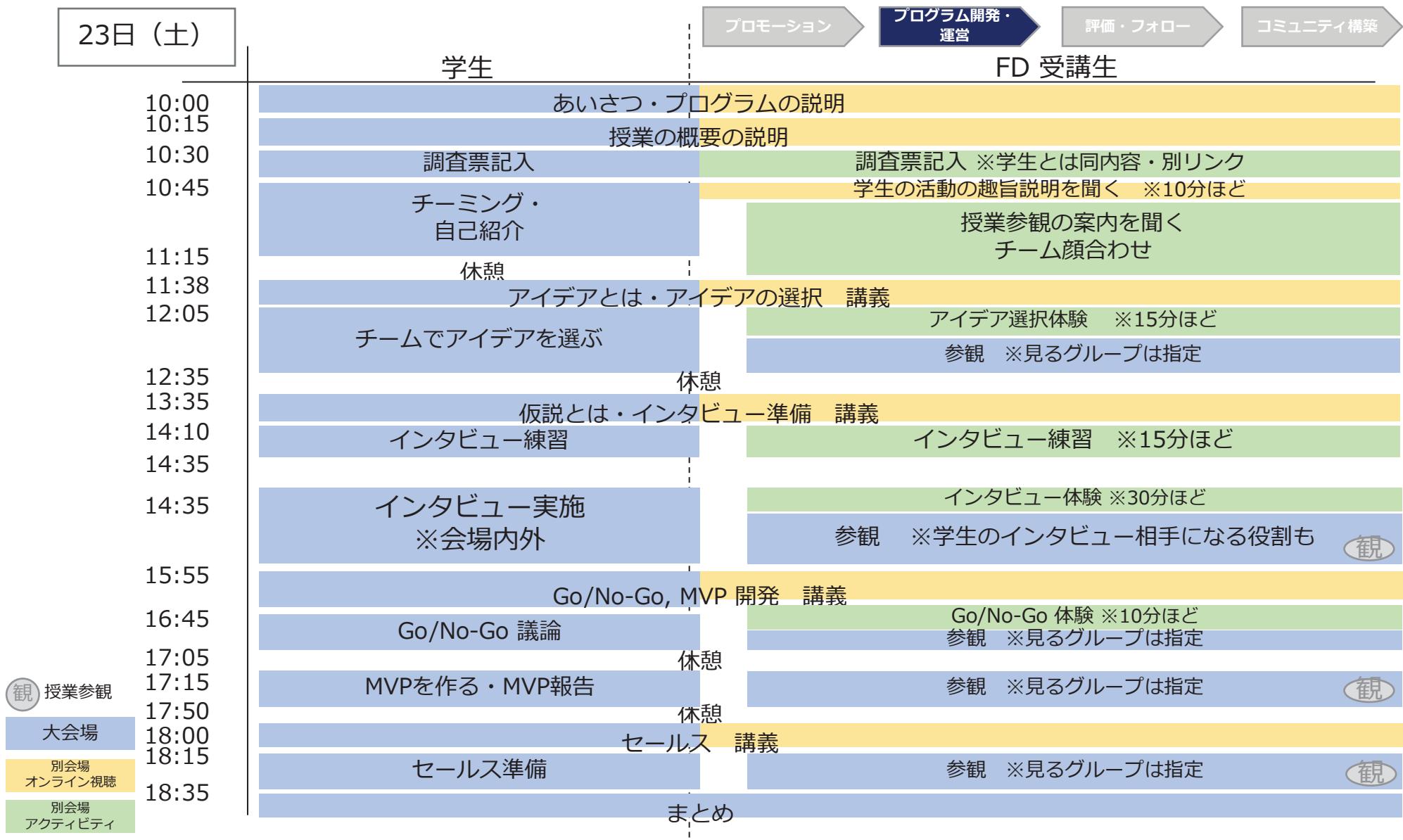
- ✓ 学生プログラムとFDプログラムは同時並行で進めた

学生プログラム・FDプログラムの全体像



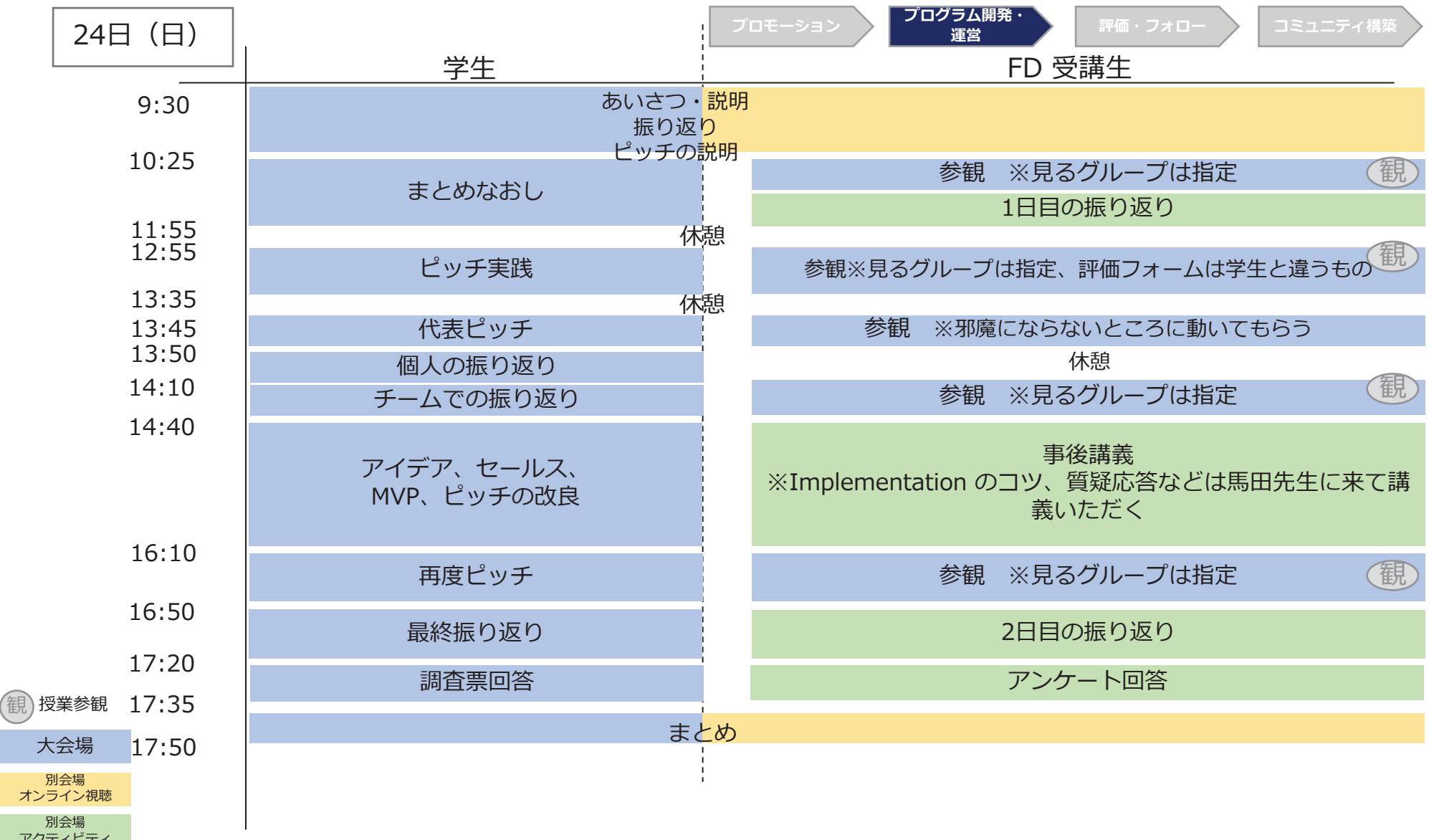
学生プログラムとFDプログラムの流れ

- ✓ 学生プログラムの内容と合わせて、1日目は授業参観や活動体験等のコンテンツを実施した



学生プログラムとFDプログラムの流れ

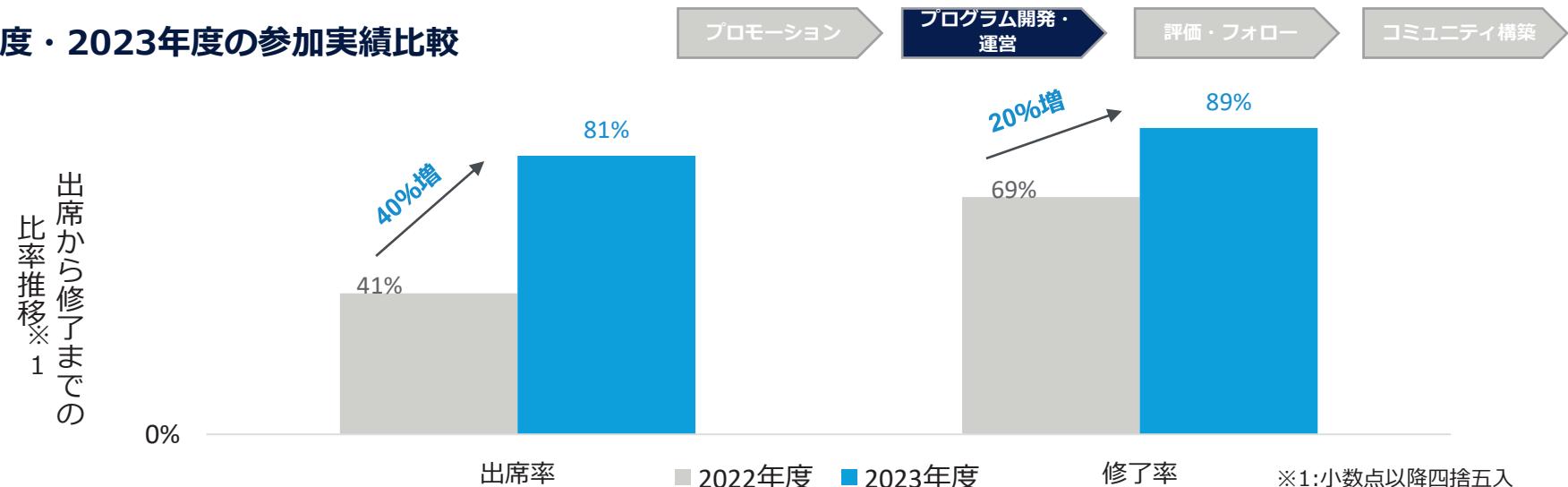
- ✓ 学生プログラムの内容と合わせて、2日目は参観等のコンテンツがあり、また事後講義も行われた



プログラム実施の観点-プログラムの運営・課題整理

- ✓ 修了率は2022年度の69%に対して、2023年度は90%であり、欠席者数軽減策の効果がみられる

2022年度・2023年度の参加実績比較



人数内訳			
22年度 プログラム	高校・高専生		
	大学生		
	大学院生		
	合計		
申込み			
23年度 プログラム	男性	女性	N/A
	16名	16名	0名
	240名	167名	6名
	77名	50名	0名
受講※2			
23年度 プログラム	男性	女性	N/A
	8名	8名	0名
	100名	69名	2名
	31名	13名	0名
修了※3			
23年度 プログラム	男性	女性	N/A
	6名	6名	0名
	77名	54名	1名
	24名	7名	0名
合計			
572名			
253名			
175名			
336名 (定員180名)			
146名			
130名			

申込み		
男性	女性	N/A
16名	16名	0名
240名	167名	6名
77名	50名	0名
合計		
572名		

受講※2		
男性	女性	N/A
8名	8名	0名
100名	69名	2名
31名	13名	0名
合計		
253名		

修了※3		
男性	女性	N/A
6名	6名	0名
77名	54名	1名
24名	7名	0名
合計		
175名		

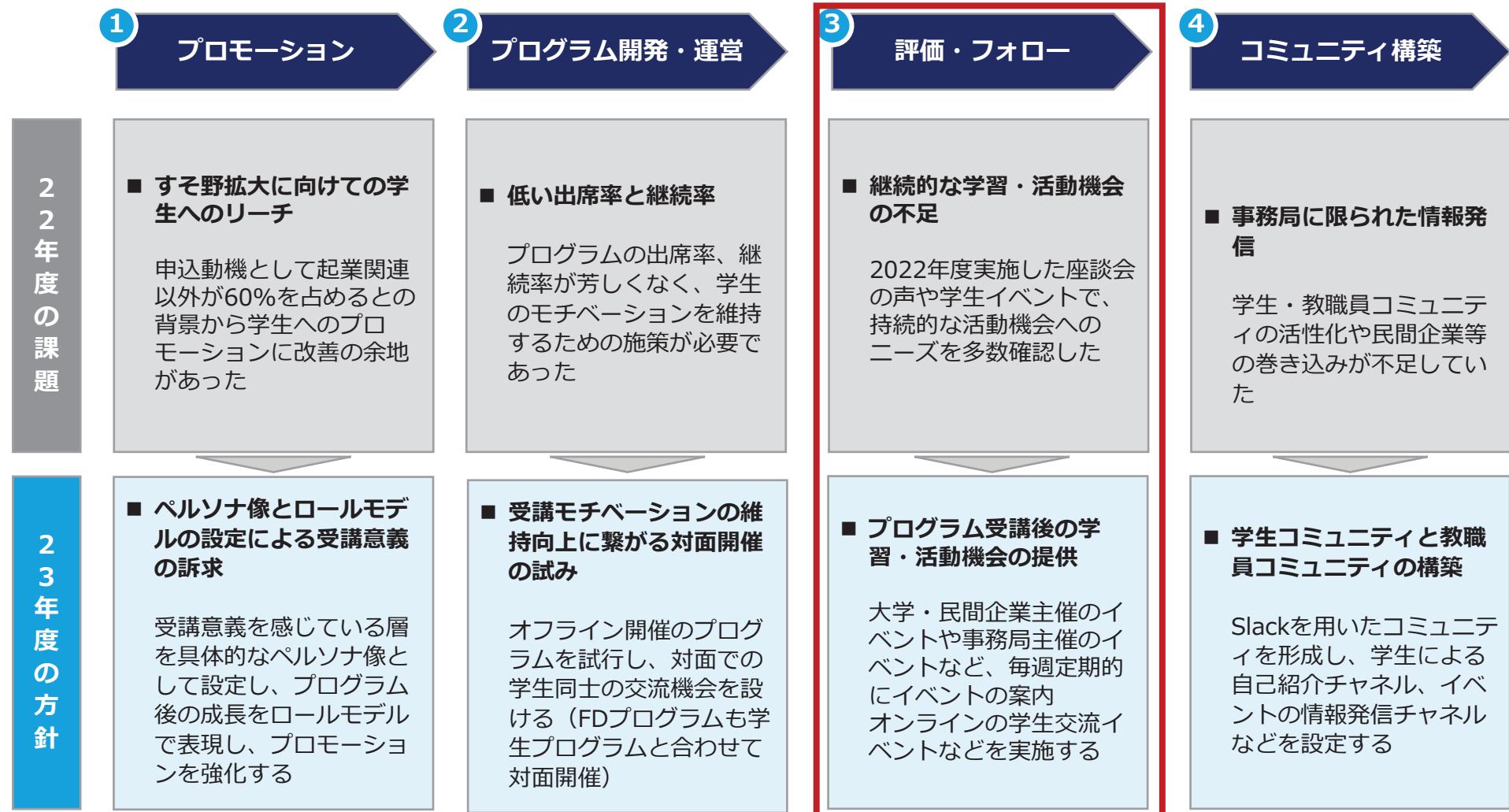
修了※3		
男性	女性	N/A
6名	6名	0名
77名	54名	1名
24名	7名	0名
合計		
175名		

※2:出席者数を集計 ※3:全日程出席者数を集計

2023年度評価・フォロ一方針

- ✓ 2022年度課題からの改善を目指して、プロモーション、プログラム開発・運営、評価、コミュニティ構築の観点から2023年度の取組方針を設定した

2022年度の課題を踏まえた2023年度の方針



評価・フォローに関する取組結果

- ✓ 事務局による継続的な情報発信・学習機会の提供、FD同窓会の企画を行った

取組結果

視点		取組事項※	取組結果
運営	学生等		
③ 変化・継続学習 評価・フォロー	3	■ アントレ教育に関連するイベント等の情報発信	■ 継続的な学習・活動機会を提供し、定期的にイベントを案内 大学・民間企業主催のイベントや事務局主催のイベントなど、毎週定期的にイベントを案内し、学生のネクストアクションに繋がる情報を探して提供できた
		■ 持続的な学習機会の提供	■ 特別講演、民間企業と連携した橋渡しプログラムの開催 特別講演は学生・教職員・民間企業計525名が参加し、アントレ精神に溢れる場となった。また、教育産業と連携したイベントを開催し、交流を通じて、学生が関心のある学習機会をより具現化できた
		■ オンライン学生イベントの実施	■ 約34名の学生がオンラインイベントに申込 3/14にオンラインの学生交流イベントを開催し、約34名の学生から申込があった。自分自身の取組の発信、悩み相談等、学生同士が意見交換を行い、大いに盛り上がった
		■ 教育効果指標の整理	■ 検証データの確保 全国プログラムを受講した学生のアンケートデータ（約200名）を回収し、受講前後の効果測定を実施した。また、全国プログラムを受講していない学生アンケートデータ（約1,000名）も回収できた
		■ FD同窓会の企画検討	■ 同窓会による教育展開のフォローアップ FD受講教員が自学で教育を展開することで、全国でのアントレ醸成を図っている。そのため、教職員同士の交流を深め、教育のフォローアップとして、4月下旬または5月上旬開催の同窓会を企画した

次ページ以降は、上記取組のうち、代表的な取組のみをエグゼクティブサマリーとして記載

フォローアップイベント：特別講演の概要

- ✓ 2023年1月13日にプログラムと同じ会場で、特別講演を実施した



名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム —特別講演 「未来を創るための起業家の思考と行動法則」	プログラム概要	2023年 1月13日 9:30~11:00 (会場では、 プログラム終了 後に交流会を実 施)	未来創造とは？不確実性の高い世の中を生き抜くた めのマインドセットとは？全米アントレプレナーシ ップ教育ランキング30年連続1位バブソン大学の講義 を体験し、新たな気づきを得よう！ 講師：バブソン大学 山川 恭弘先生
事業背景・目的	今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレプレナーシップ教育を推進しています。アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、すべての人が身につけるべき資質であると考えています。			
募集対象	全国の大学生・大学院生・高等専門学校生 オフライン：最大200名（抽選制） オンライン：最大1000名（先着順）	WEBサイト	プログラム概要 日時 <p>1月13日（土）9:30~11:00（会場では、プログラム終了後に交流会を実施予定）</p> 開催方法 <p>ハイブリッド開催</p> <p>オフライン：Deloitte Tohmatsu Innovation Park 〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル8F (https://park.deloitte.jp/) 東京メトロ千代田線二重橋駅 出口1から徒歩1分 都営三田線日比谷駅 出口2から徒歩1分</p> オンライン <p>オンライン：Zoom</p> 募集人数 <p>オフライン：最大200名予定（抽選制） オンライン：最大1000名予定（先着順）</p>	
開催形式	東京会場でのオフライン開催 (東京都千代田区丸の内三丁目3番1号新東京ビル)			
受講料金	無料（交通費・宿泊費等は自己負担）			
その他	教職員、民間企業・団体も参加可能			
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/			

特別講演の様子

- ✓ 米国のバブソン大学から山川先生をお招きし、特別講演を実施
- ✓ 全国プログラムと同じ会場で開催し、会場を歩き回りながら、参加者と直接会話しながらの本場バブソンの授業を展開頂いた

プロモーション

プログラム開発・運営

評価・フォロー

コミュニティ構築

学生と会話しながら講義を展開



オンラインでも視聴できるように配信



参加者による集合写真



特別講演の申込学生

✓ 東京エリアの申込が多く、次いで、その他関東エリア、四中国エリアが多かった。また、性別を見ると男性の申込が多かった

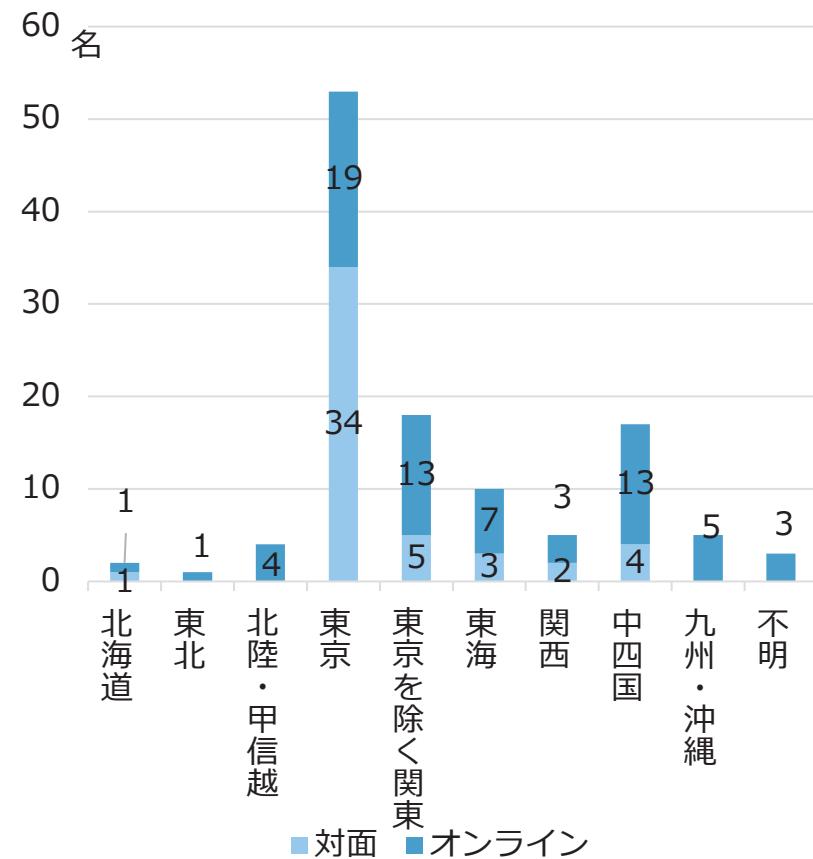
プロモーション

プログラム開発・運営

評価・フォロー

コミュニティ構築

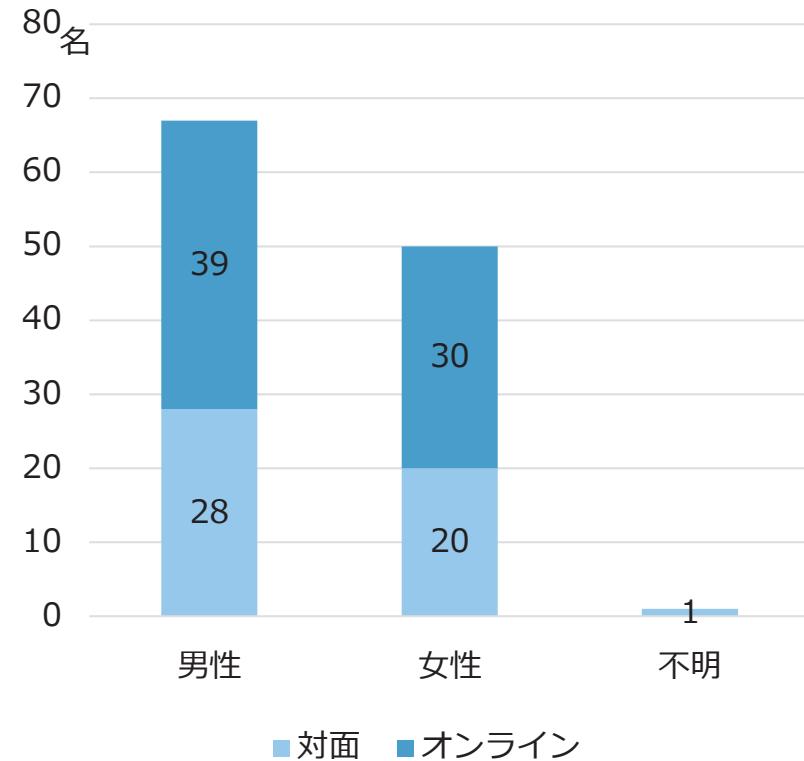
申込学生の所属学校の都道府県について



(N=118)

※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県／
北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県／
関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

申込学生の性別について



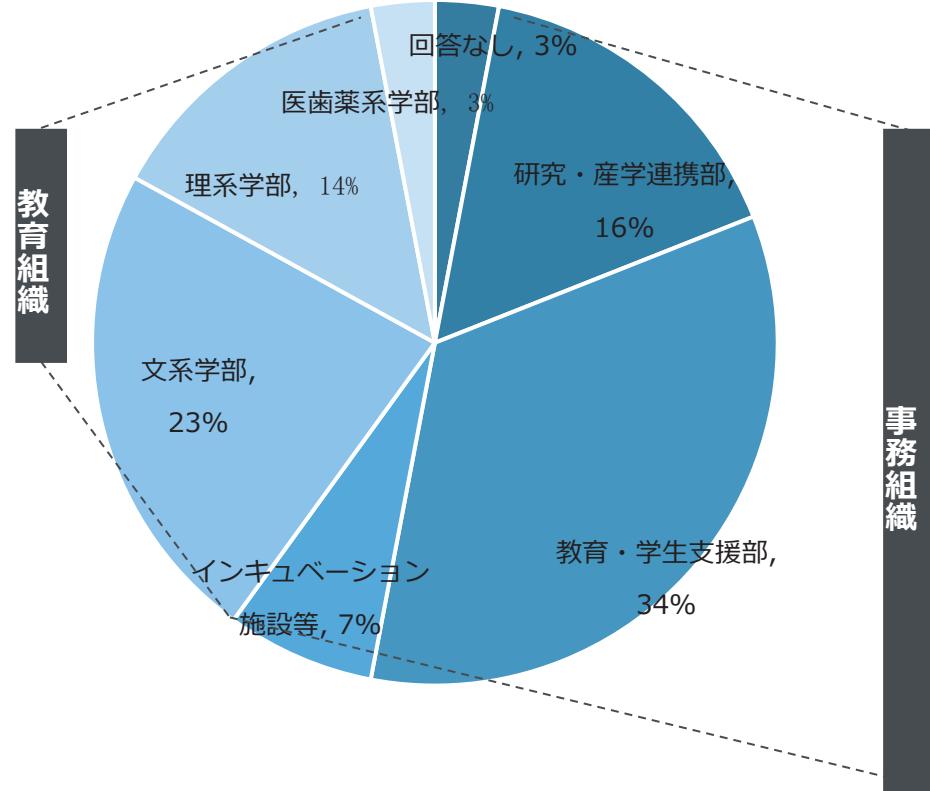
(N=118)

特別講演の申込教職員・民間

- ✓ 教職員は教育・学生支援部が一番多かった。民間はサポート・運営関連の部署が多くの割合を占めていた

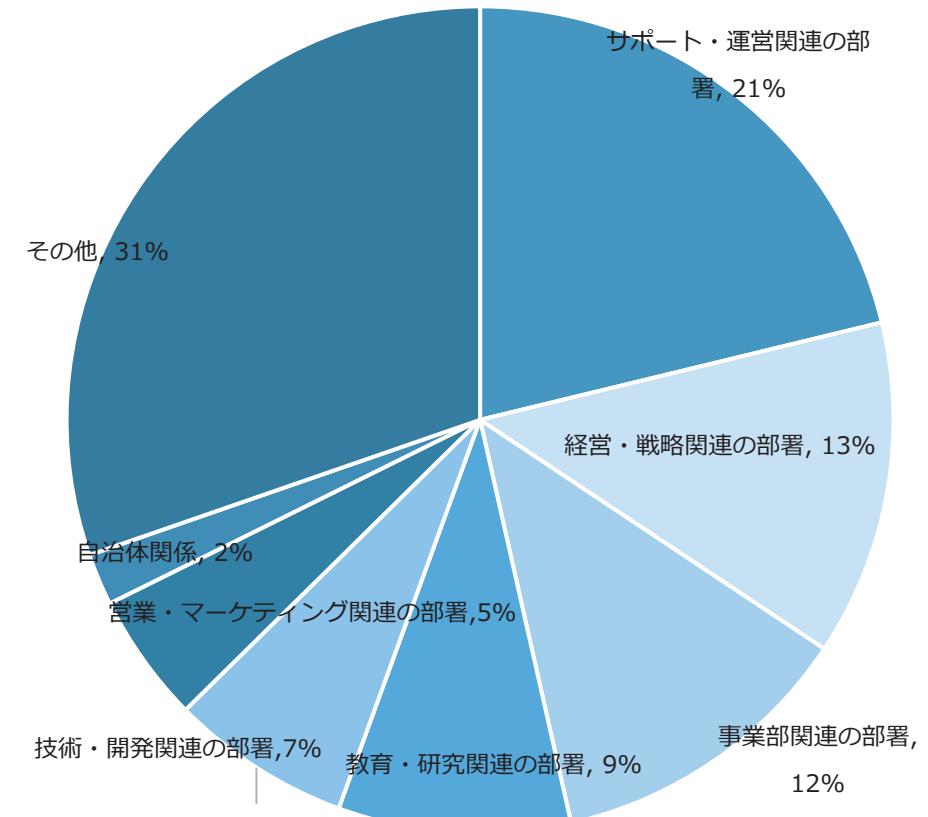


申込教職員の部署について



(N=353)

申込民間企業・団体の部署について



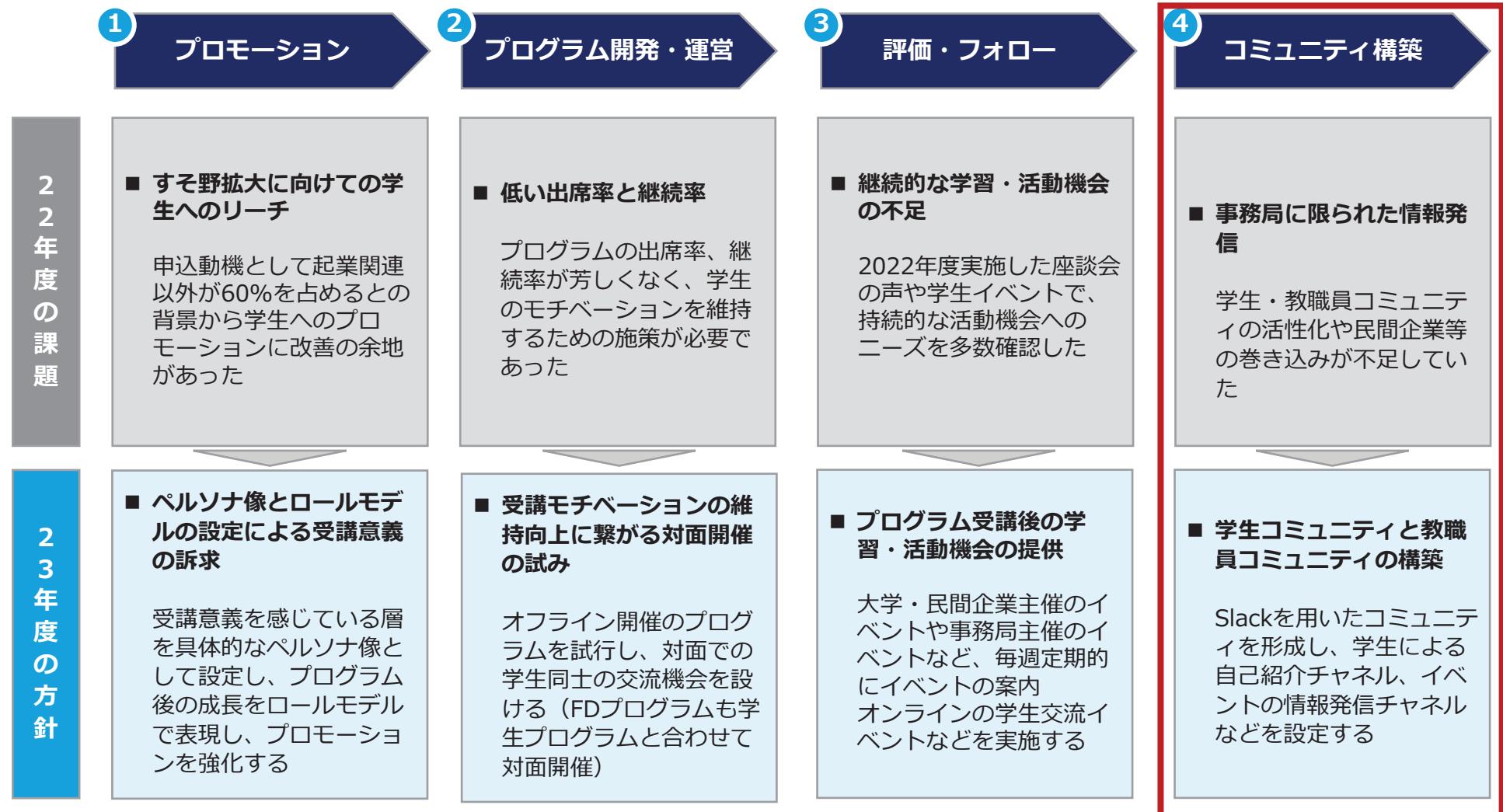
その他：代表取締役、個人事業主、役員、クリニック、無記入等

(N=131)

2023年度コミュニティ構築方針

- ✓ 2022年度課題からの改善を目指して、プロモーション、プログラム開発・運営、評価、コミュニティ構築の観点から2023年度の取組方針を設定していた

2022年度の課題を踏まえた2023年度の方針



コミュニティ構築に関する取組結果

- ✓ 学生・教職員コミュニティを構築し、参加者同士の交流を図った

取組結果



視点		取組事項※	取組結果
運営	学生等		
4 コミュニケーション構築	持続的な交流・コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生コミュニティの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 401名の学生がコミュニティに参加 Slackコミュニティでは401名※の学生が参加している。コミュニティは、プログラムに関するアナウンスチャネル、学生による自己紹介チャネル、イベントの情報発信チャネルを設けている
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員コミュニティの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 138名の教職員がコミュニティに参加 Slackコミュニティでは138名※の教職員が参加している。コミュニティ内では、プログラムに関するアナウンス、限定コンテンツ配信等を実施している

次ページ以降は、上記取組のうち、代表的な取組のみをエグゼクティブサマリーとして記載

※2024年3月12日時点の参加者数

Slackにおける情報発信

- ✓ 学生・教職員用のチャネルを作成、事務局からの情報発信、プログラムに関する定期的なアナウンスを行い、また参加者による積極的な発信もみられた

Slackでの情報発信（一部紹介）



主な工夫	<p>閲覧数の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の関心が高いテーマにフォーカスし、厳選した情報を配信 ■ 閲覧者が情報過多で疲れを感じさせないため、配信頻度をコントロール <p>主体的な投稿の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 絵文字の活用など、交流しやすい雰囲気を醸成 ■ アナウンスしたい学生には、事務局を通さず、自分で配信できるような機会を提供
------	---

事務局によるアナウンス例

文部科学省主催「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」運営事務局でございます。

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムオフィシャルサイト：<https://entrepreneurship.education.mext.go.jp/>や、

このオンラインコミュニティは、アントレプレナーシップに関する各種情報を定期的に配信しております。

本日はこの女性起業家支援プログラムのイベント情報を聞いてお知らせさせていただきます。

是非、ご興味がありましたらお申込みくださいませ！

※登壇者の女性起業家支援プログラム（イベント開催のお知らせ）

登壇者は、横浜市・横浜市・札幌市、Tokyo Women in VCとともに女性起業家となるイベントを2月に渋谷/日比谷で開催しますので是非ご参加ください。女性起業家／女性VCの方はもちろん、男性も、起業やバズ系に興味がある方、ネットワーキングの時間も設けておりますので、両場でお話しできることを望んでいます。

0時頃：2024年2月7日㈮ 18:00～20:00

会場：渋谷パルコDG＆ららぽーと豊洲カーフェンスホール「Dragon Gear」
（渋谷駅徒歩1分）<https://maps.app.goo.gl/verfEEnuhi998P129>

0チケット：女性起業家の齊藤真澄ストーリーの井林

○アグエンタ：

18:00-18:15：登壇

18:15-19:00：リモディスカッジョン（Remain Tech上巣長、ANRI会員）

19:00-20:00：女性起業家ビッチセッション
20:00-21:00：ネットワーキング

ご感想：（10:10AM）<https://tallying.com/wiitperform.com/tv/1AQ208Qj>

貢献にご関心がある方いらっしゃいましたら女性起業家の活躍や支援者ネット

参加者によるイベント共有例

【イベント共有】

「学校お泊り会&防災キャンプ」やります！

→企画の中心は中学生たち

千葉県木更津市で「教育、福祉」を中心としたまちづくりに取り組んでいる大学4年生（休学中）です。

活動は「多世代の交流を地域のゆるやかな繋がりで充実」という想いの元「地域チャレンジ協議の生態系づくり」をミッションに活動しております。

▶こんなキーワードにピント来る方お話ししましょう！

（教育、福祉、障がい、子ども、地域、コミュニティ、文化、観光、つながり、プレイパーク、子ども食堂、地域食堂、コースセンター、認知症ケア、古民家リノベ、シェアハウス、イベント企画など）

そこで今後もお泊り会&防災キャンプ第一回を【3/2-3】でやります！

興味ある方いたら連絡ください！

B4D180337-E707-4C42-B43B-727FEDC67CFA

22年度と23年度の結果比較

- ✓ 2022年度プログラムと2023年度プログラムのアンケート結果を比較し、23年度プログラムの効果分析を行った
- ✓ 2022年度のコース2（3日間によるプログラム）を比較対象とした

アンケート結果比較の方法

比較方法

- 2022年度は1日間によるプログラムと3日間によるプログラムのを1回ずつ実施した
- 2023年度は2日間によるプログラムを1回実施した
- 比較対象は2022年度プログラムのコース2（2023年度と類似内容）とした

2022年度プログラムの概要

コース1

社会課題
テーマコース
2023年1月7日
(土) 10時-17時

社会問題の解決において思考の発散と収束を繰り返してアイデアを創出する グループワークと創出したアイデアをソーシャルビジネスに繋げる考え方を学ぶ

講師：神戸大学 鶴田宏樹先生

コース2

ビジネスでの起業テーマコース
2022年12月26-28日13時-17時

ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つ スキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ
今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを 始めて社会の役に立ちたい人を対象とした授業

講師：東京大学 馬田隆明先生

プログラム概要

2023年度プログラムの概要

ビジネスでの起業テーマコース

2023年
12月23-24日
1日目10:00-19:00、
2日目9:30-18:00

ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つ スキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ
今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを 始めて社会の役に立ちたい人を対象とした授業

講師：東京大学 馬田隆明先生

プログラム概要

全国プログラム 学生向けアンケート

申込者のプログラム認知方法の比較

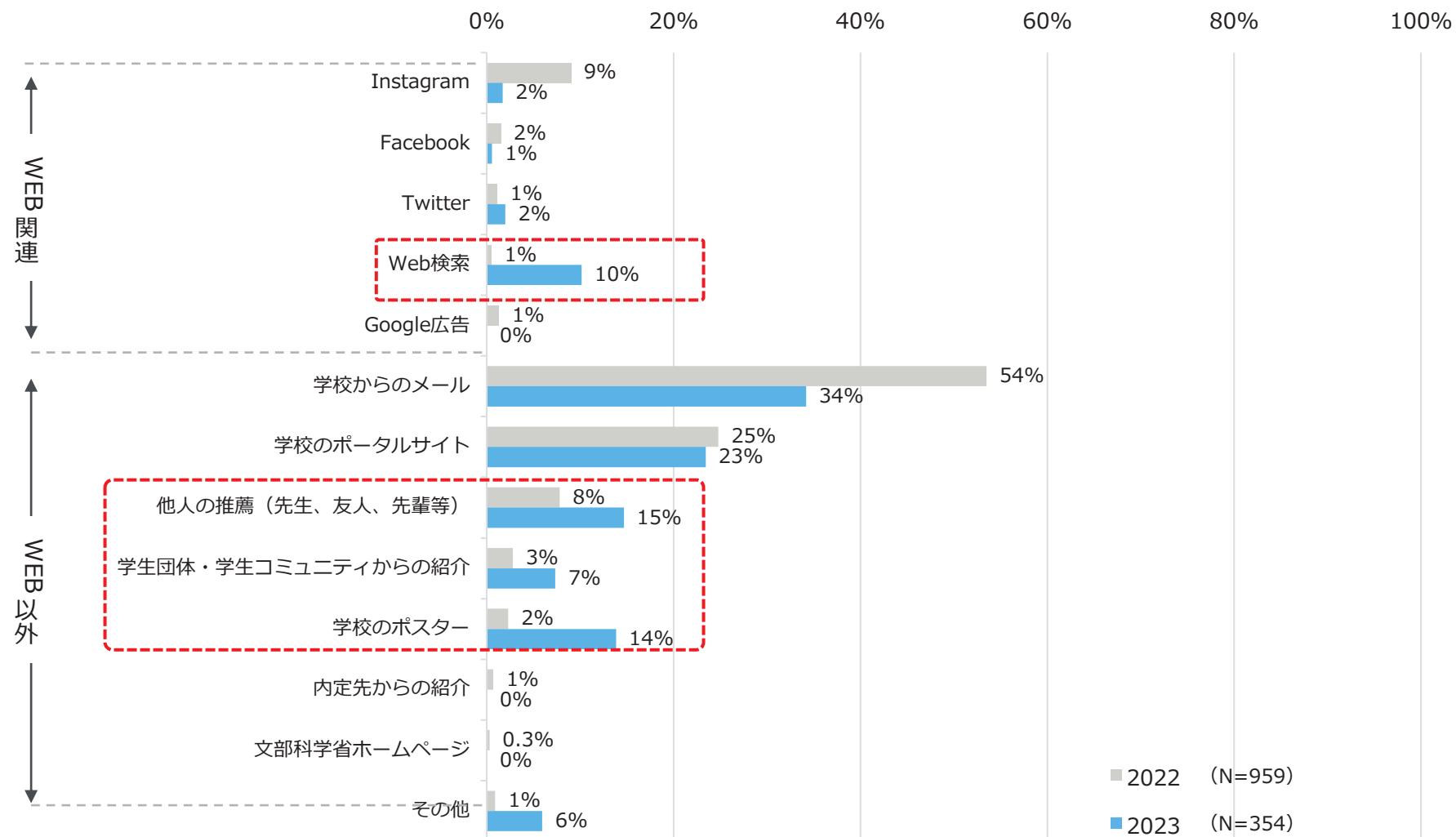
- ✓ 2022年同様、主な認知機会は学校媒体であるものの、普段の大学生活での活動や関わりを通しての認知が増加しているほか、自己検索によるオーガニックな認知も増加している

申込者が当プログラムを知ったきっかけについて（複数選択）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



プロモーションを踏まえた申込者情報の比較①

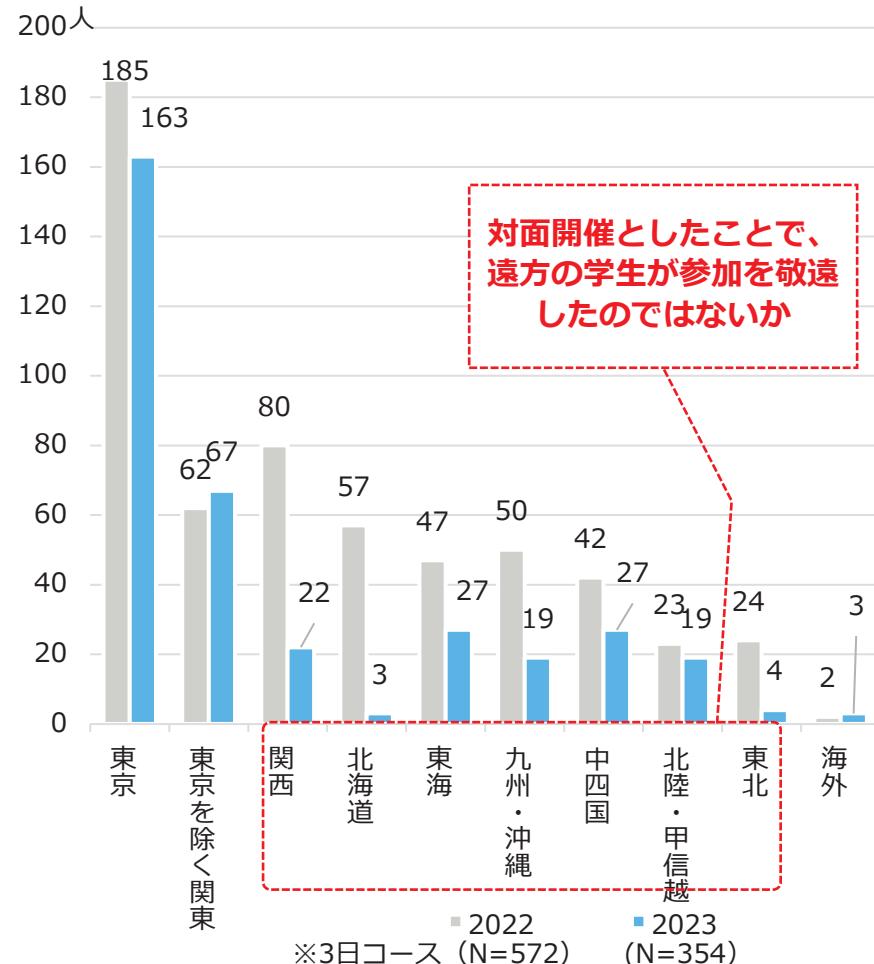
- ✓ 東京及びその他関東エリアからの申込が多く、全体の65%程度を占めていた一方、遠方からの申込が減少した
- ✓ 文理別で見ると、文系学部の学生が半分弱を占めていた

学生アンケート

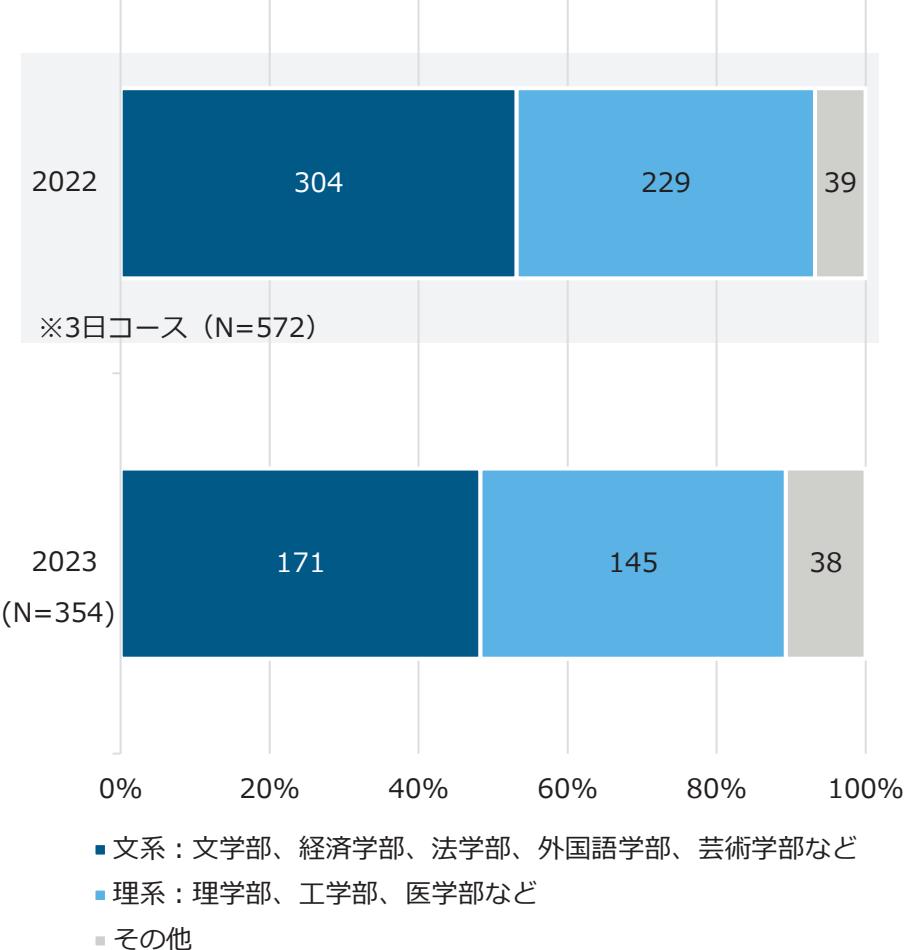
教職員アンケート

FD教職員アンケート

申込者の所属学校の都道府県について



申込者の学問の系統について



プロモーションを踏まえた申込者の情報の比較②

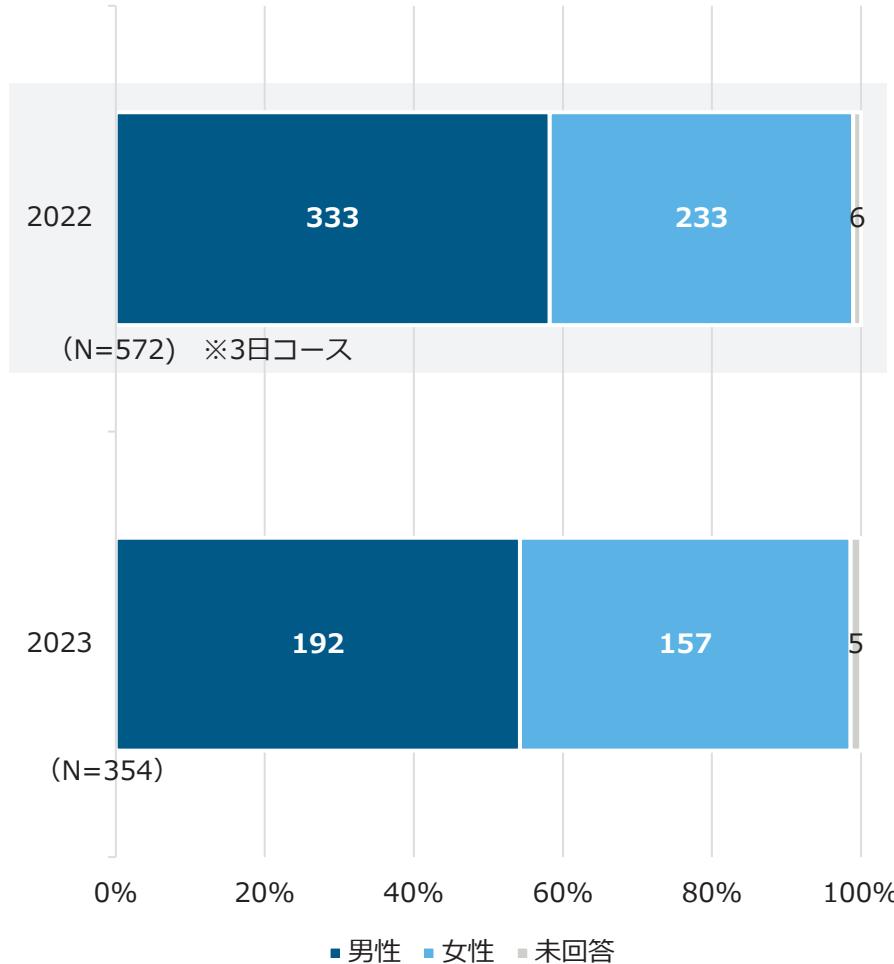
- 両コースともに男女あまり偏りなく、均等のバランスで申込があった
- 申込者の内、学部1年生から学部4年生までで全体の約75%を占めたが、高校生の参加も4%ほどあった

学生アンケート

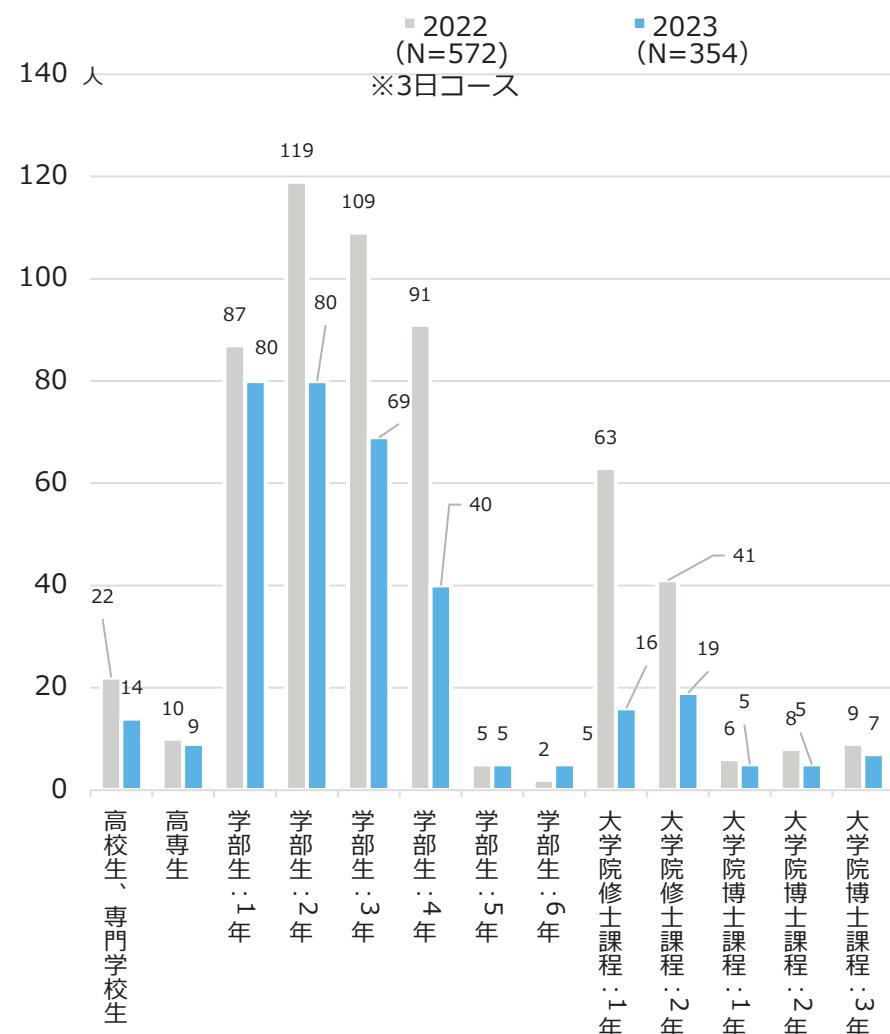
教職員アンケート

FD教職員アンケート

申込者の性別について



申込者の学年について



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの申込者アントレ教育受講歴

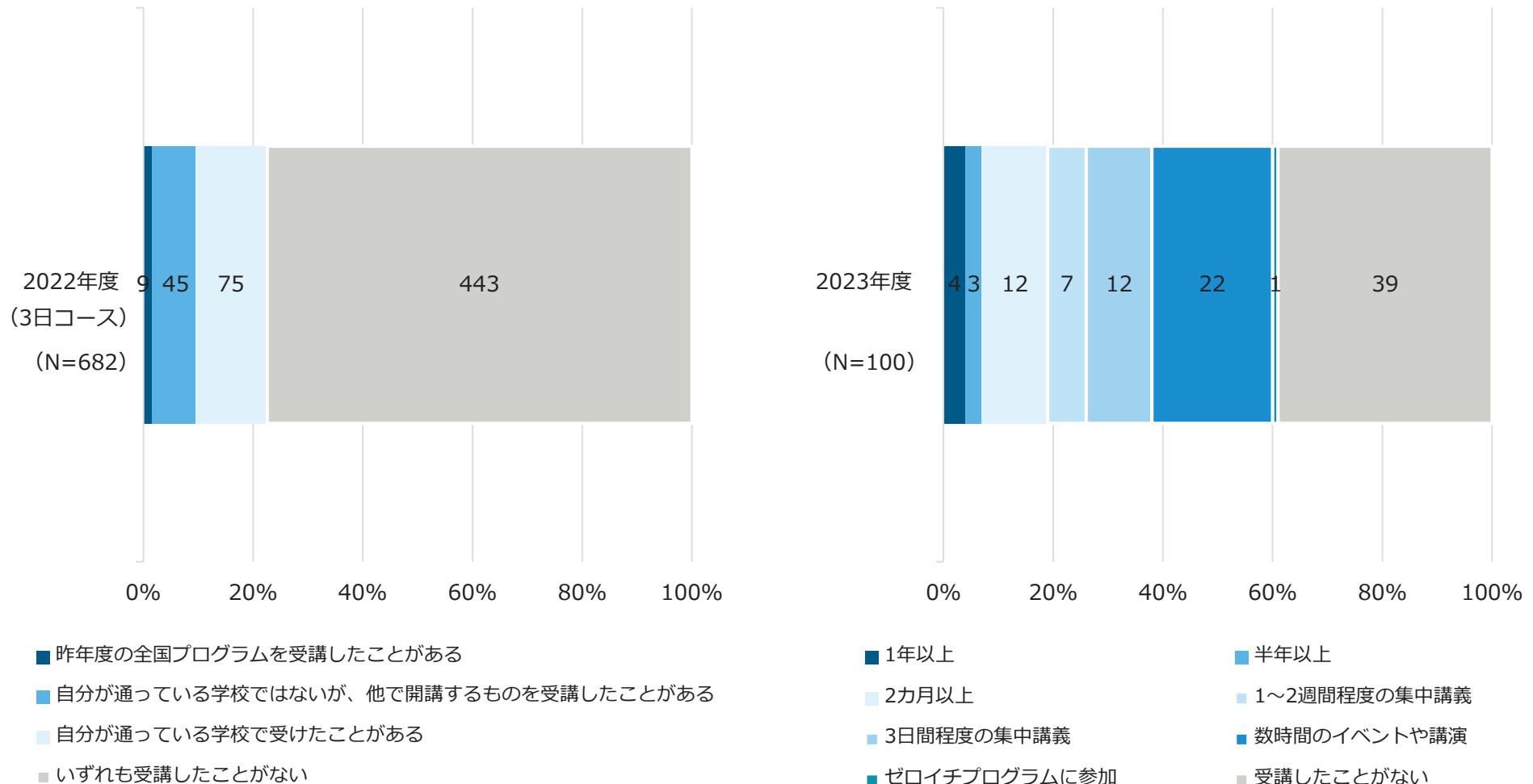
- ✓ 何らかのアントレ教育の受講経験のある学生の割合が増加しているものの、受講者のうち、4割程度がアントレ教育の受講経験が全くない

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

申込者のアントレ教育の受講経験の有無について



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの申込者アントレ教育受講歴

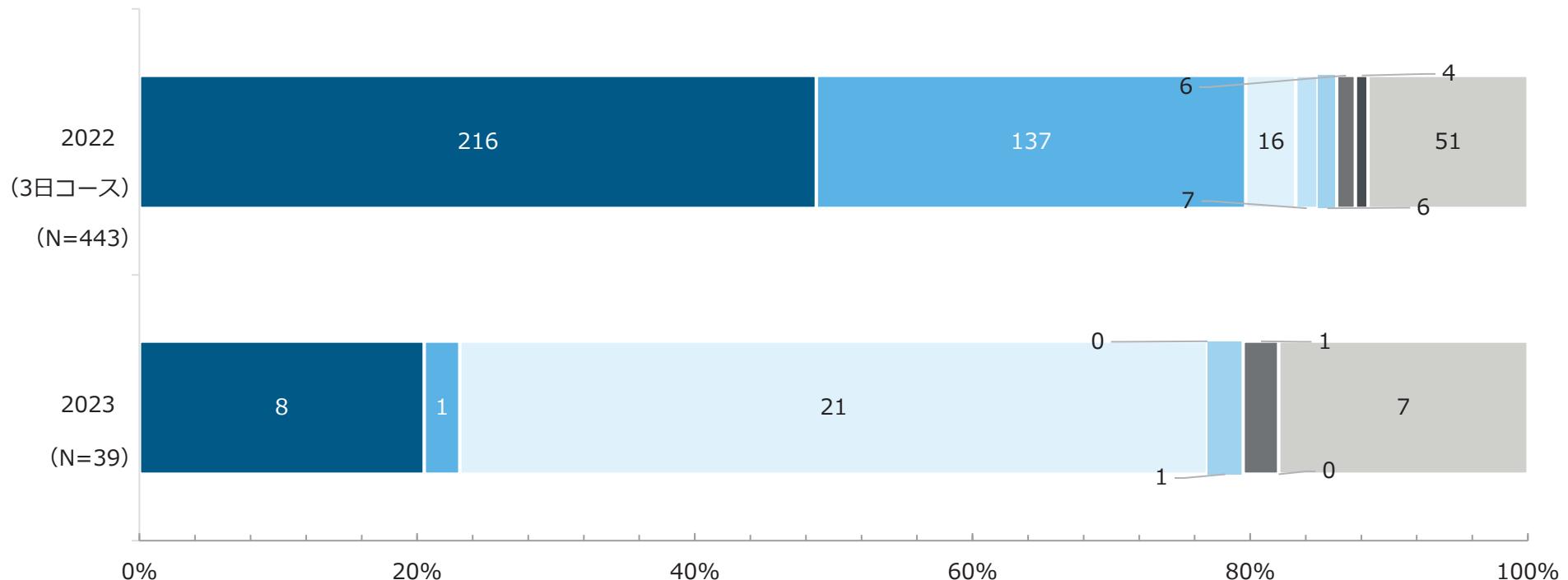
- ✓ アンケート配布対象が異なるため単純比較はできないが、アントレ教育が自身に無縁

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

アントレ教育を受講したことが無い理由について



- これまでアントレ教育は自分には無縁のものであると考えていたため
- アントレ教育の存在自体を知らなかつたため
- 昨年度の全国プログラムに応募したが、当選しなかつたため
- アントレ教育を受ける機会に恵まれなかつたため

- 自分の学校でアントレ教育を実施していないため
- 本プログラムの存在を知らなかつたから
- 日程が合わなかつたため
- その他

プログラム満足度

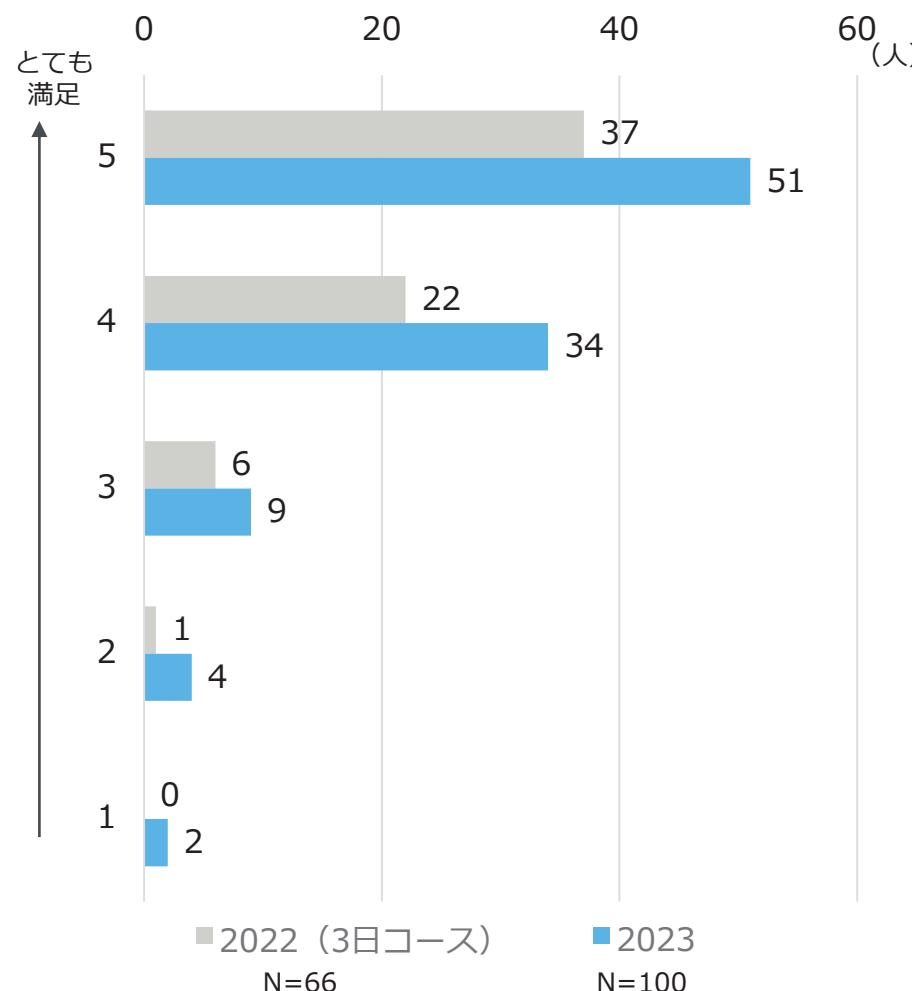
✓ 全体の85%が満足をしている傾向にあり、普段得られない学びに関するコメントが見られた

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

プログラムの満足度について



左記満足度を選んだ理由（まとめ）

満足度4-5

- ・ 交流会で他の参加者と会話を深めたため
 - ・ アントレプレナーシップへの興味が深まったため
 - ・ 課題解決の手法に関する理解が深まったため
 - ・ 普段の授業と異なる知識を得て視野が広げたため
 - ・ 仮説立案や顧客インタビューに対する理解が深かったため
 - ・ プレゼンに力を注ぐことができたため
 - ・ グループワークで新たなアイディアを出すことができたため
- 新たな学び

満足度1-3

- ・ 内容よりも学びの環境（芝生や休憩時間少ない）が不適切なため
- ・ 運営の段取りやワークショップの前提に不満を感じたため

プログラムの良かった点

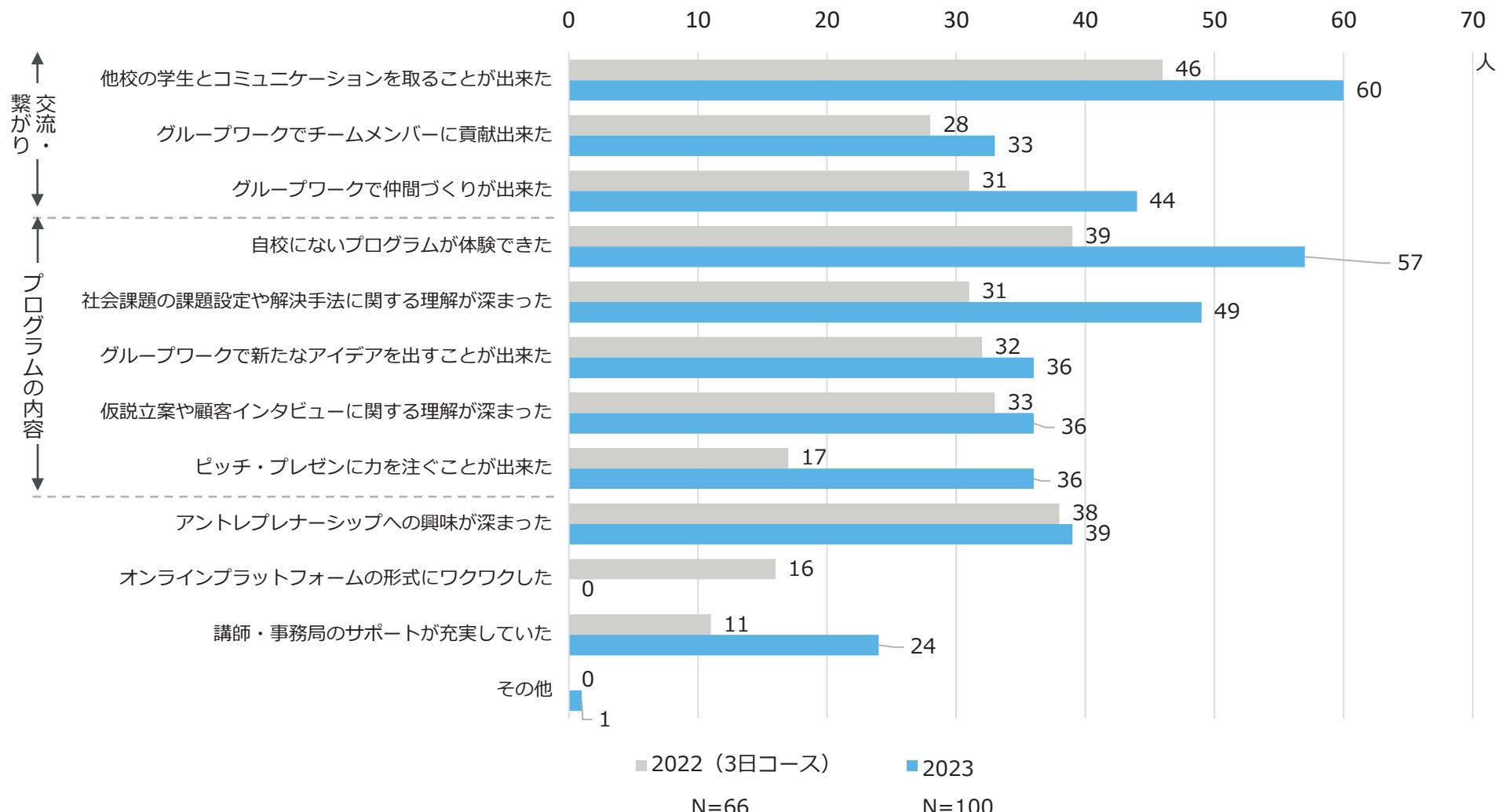
- ✓ コミュニケーションや仲間づくりの点で昨年より良い評価をいただいている傾向にある
- ✓ 対面開催としたことで、プログラム全体への満足度が上がっているのではないか

本プログラムの良かった点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



プログラムの改善が必要な点

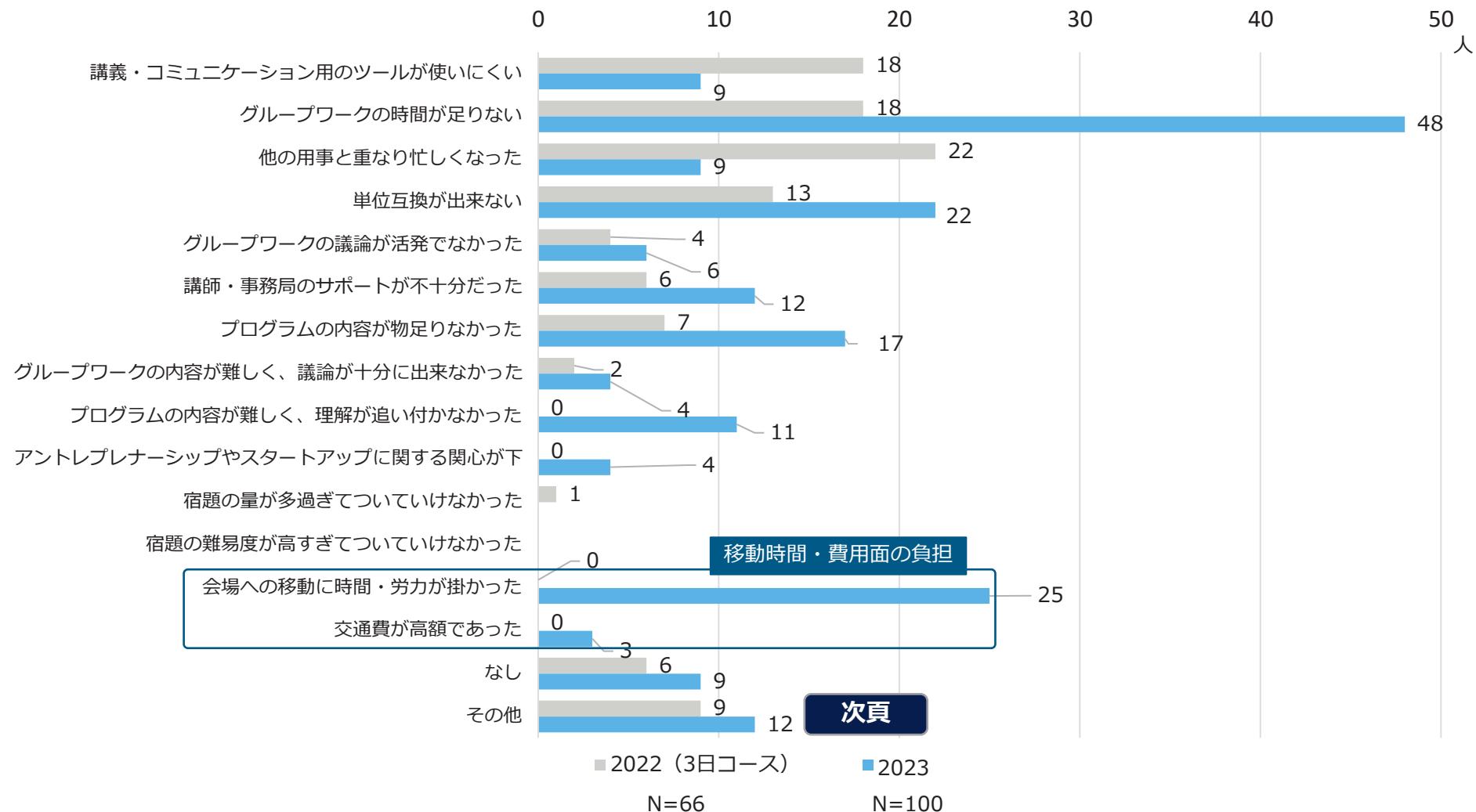
- ✓ コミュニケーションツールの使いにくさは改善された一方、グループワークの時間に引き続き不満がある
- ✓ 対面開催としたことで、会場への移動時間や費用負担に対する不満が多くあがっている

本プログラムの改善が必要な点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



プログラムの改善が必要な点

- ✓ 対面開催としたことで、新たに会場設備の不足について言及する回答があった

改善が必要な点について（複数回答）その他の回答まとめ

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

チーム編成や取組

- チームでの応募だけでなく、それぞれがバラバラになった方が平等
- 会場全体でコミュニケーションを取る事がしたかった
- 違う学年の人とチームになりたかった。
- 諸々の個人の意見を集めたものをとにかく共有してほしい
- 全体のプログラムの詳細を公開して欲しかった
- 事前アナウンス不足・情報共有の不足

他の予定との兼ね合い

- 必要なのは理解できるがやはり長い
- 日程が厳しかった
- 日数、助けが少なかった

会場設備

- 机が欲しい
- 学びの環境(芝生や休憩時間少ない)が不適切である
- 作業スペースが狭かった
- 資料の印刷の精度が低い

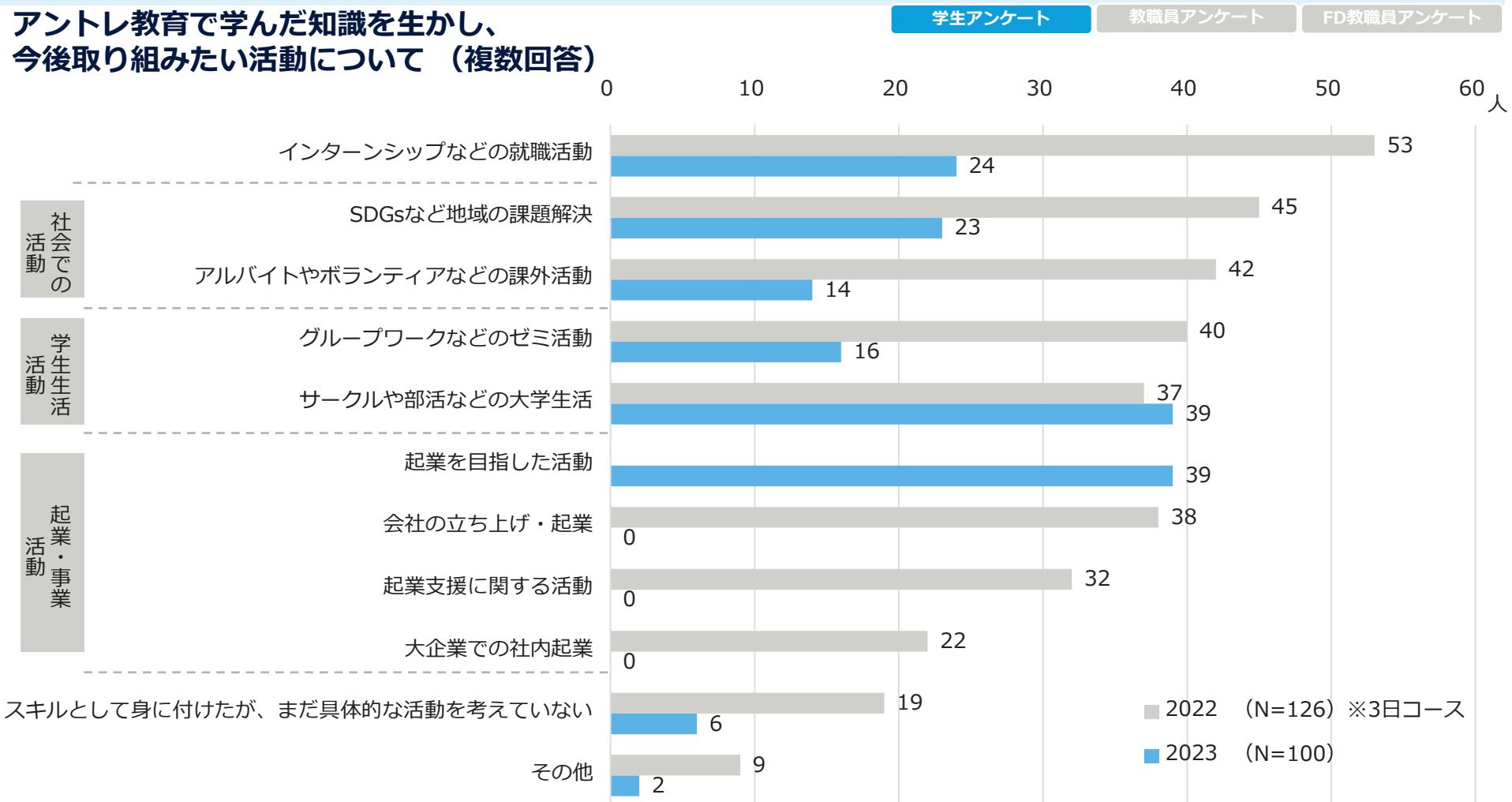
その他

- 企業指定した理由を簡単でいいからちゃんと伝えてほしい
- 費用が高額であった
- お昼ご飯を食べるのに時間がかかる
- 写真が撮りたい

今後取り組みたい活動について

- ✓ 設問が異なるため単純比較はできないが、サークルや部活など普段の大学生活をより充実させたい学生と企業を目指して活動したい学生が最も多くなった

アントレ教育で学んだ知識を生かし、 今後取り組みたい活動について（複数回答）



望ましい開催時期・時間

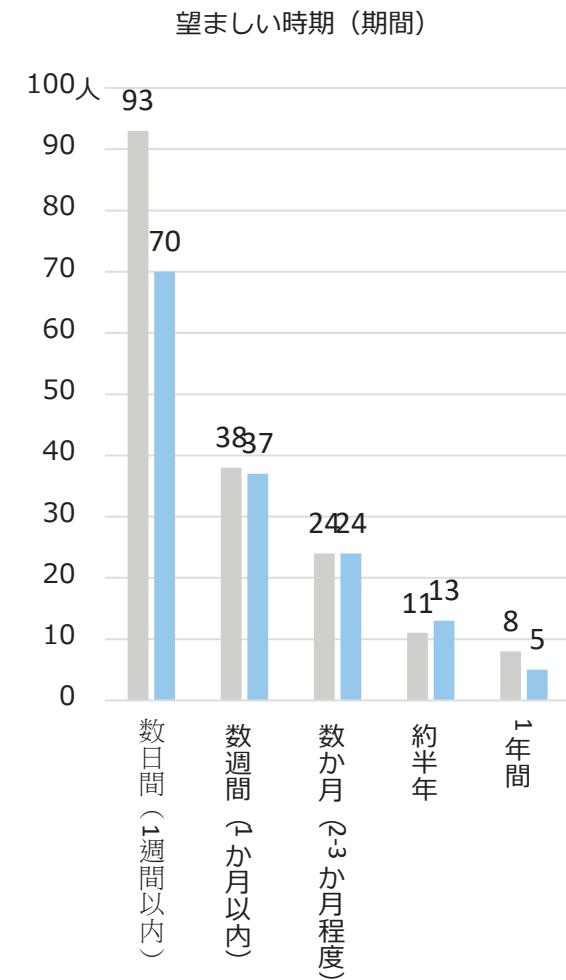
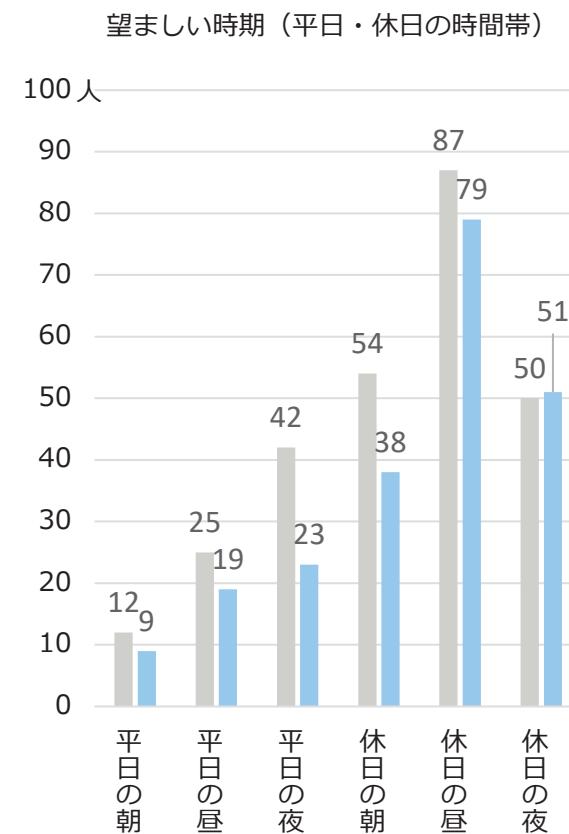
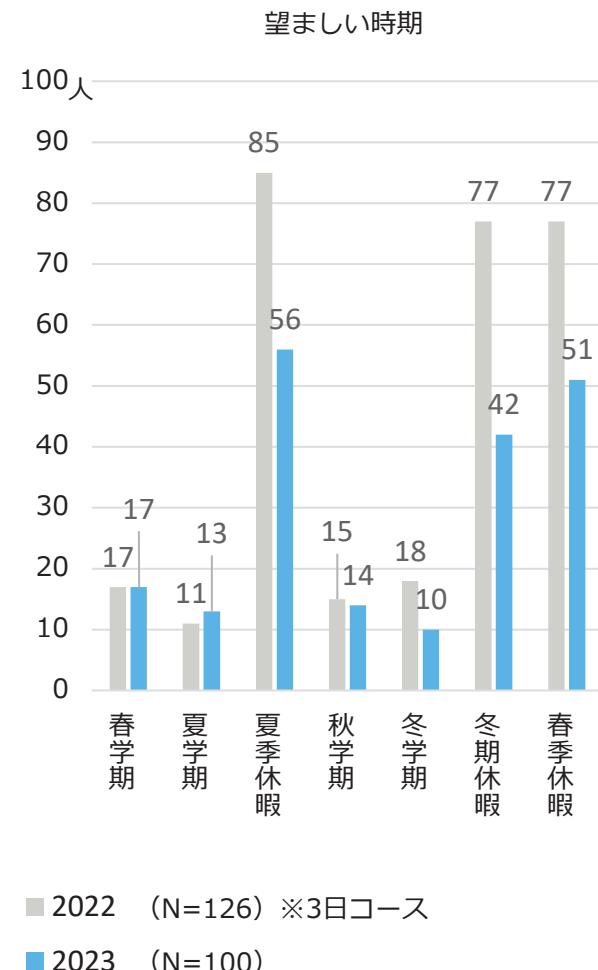
- ✓ 時期は夏季、冬季、春季含め休暇中、時間帯は休日の昼間、期間は数日間が望ましいとの回答が多かった

望ましい開催時期・時間について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



全国プログラム FD教職員向けアンケート

FDプログラムの満足度について

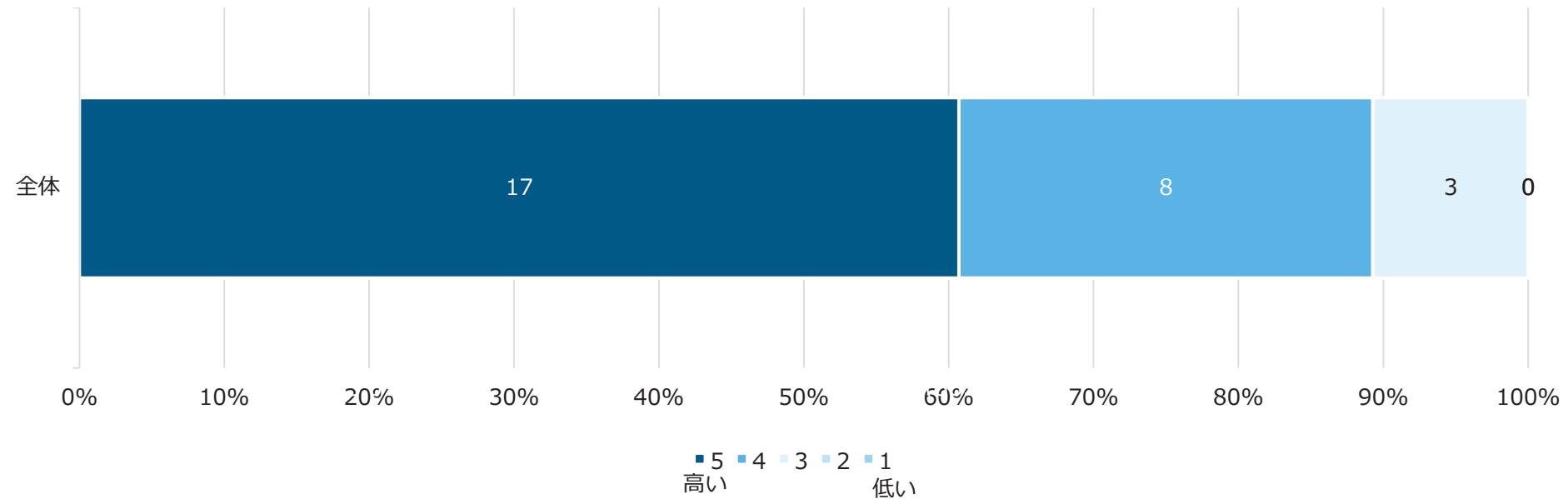
- ✓ 全体を通して、回答者の約9割が4以上を回答した
- ✓ 4以上の回答者の理由で最多の意見はアントレ教育の展開に、教育手法が参考になったためという理由だった

当プログラムの満足度について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



回答の理由

- ✓ 満足度：5
 - ✓ アントレ教育の展開に、教育手法が参考になったため 16人
 - ✓ アントレ教育に関する理解が深まったため 14人
 - ✓ アントレ教育の展開に、プログラムデザインが参考になったため 14人
- ✓ 満足度：4
 - ✓ アントレ教育の展開に、教育手法が参考になったため 8人
 - ✓ アントレ教育の展開に、プログラムデザインが参考になったため 7人
- ✓ 満足度：3
 - ✓ アントレ教育に関する理解が深まったため 2人
 - ✓ アントレ教育の展開に、教育手法が参考になったため 2人

(N=28)

FDプログラムを通じて良かった点

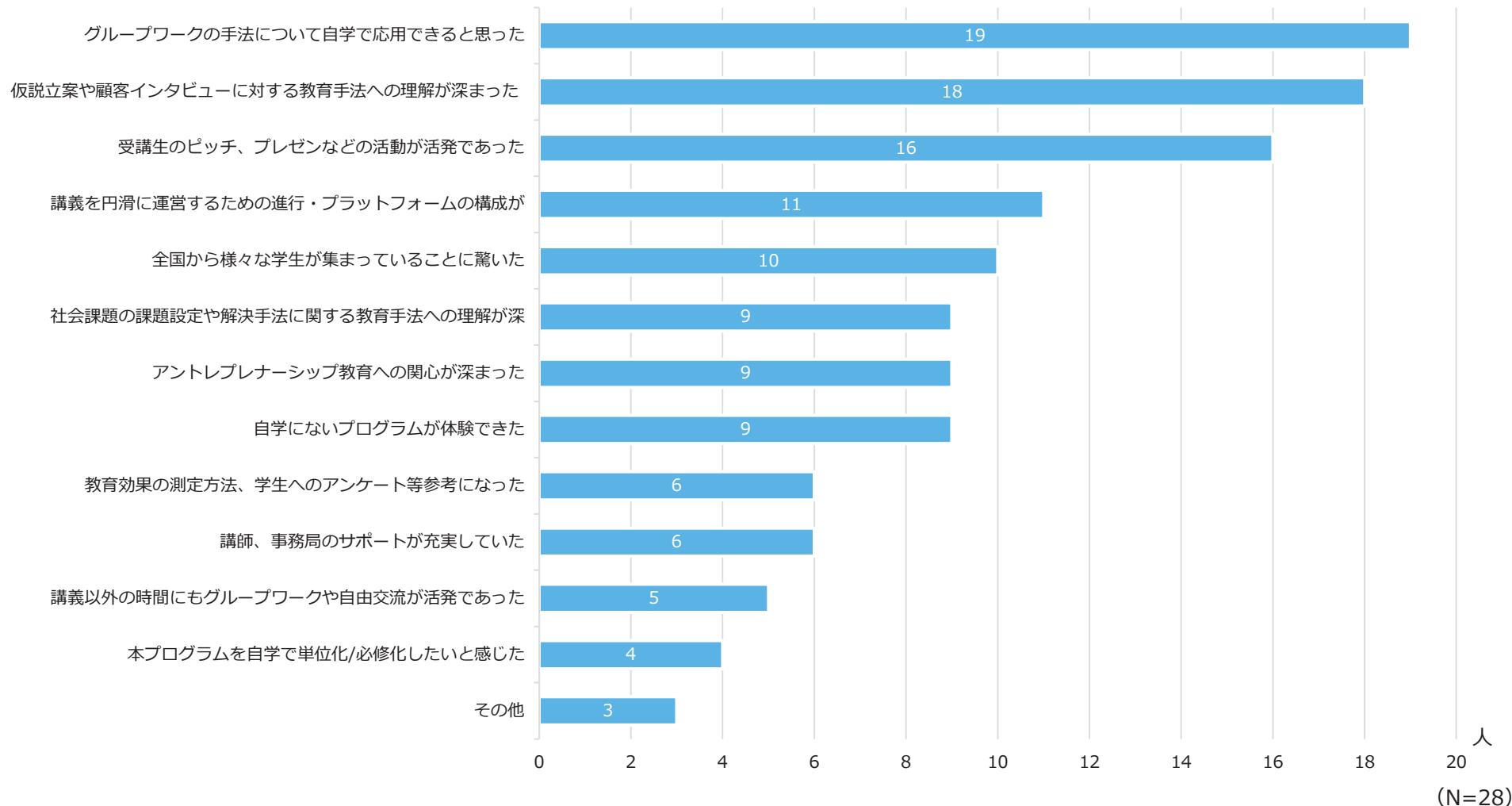
- ✓ 半数以上の回答者が、グループワークの手法について自学で応用できる、仮説立案や顧客インタビューに対する教育手法への理解が深まった、学生の活動が活発であったと回答していた

プログラムを通じて良かった点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



FDプログラムを通じて改善が必要な点

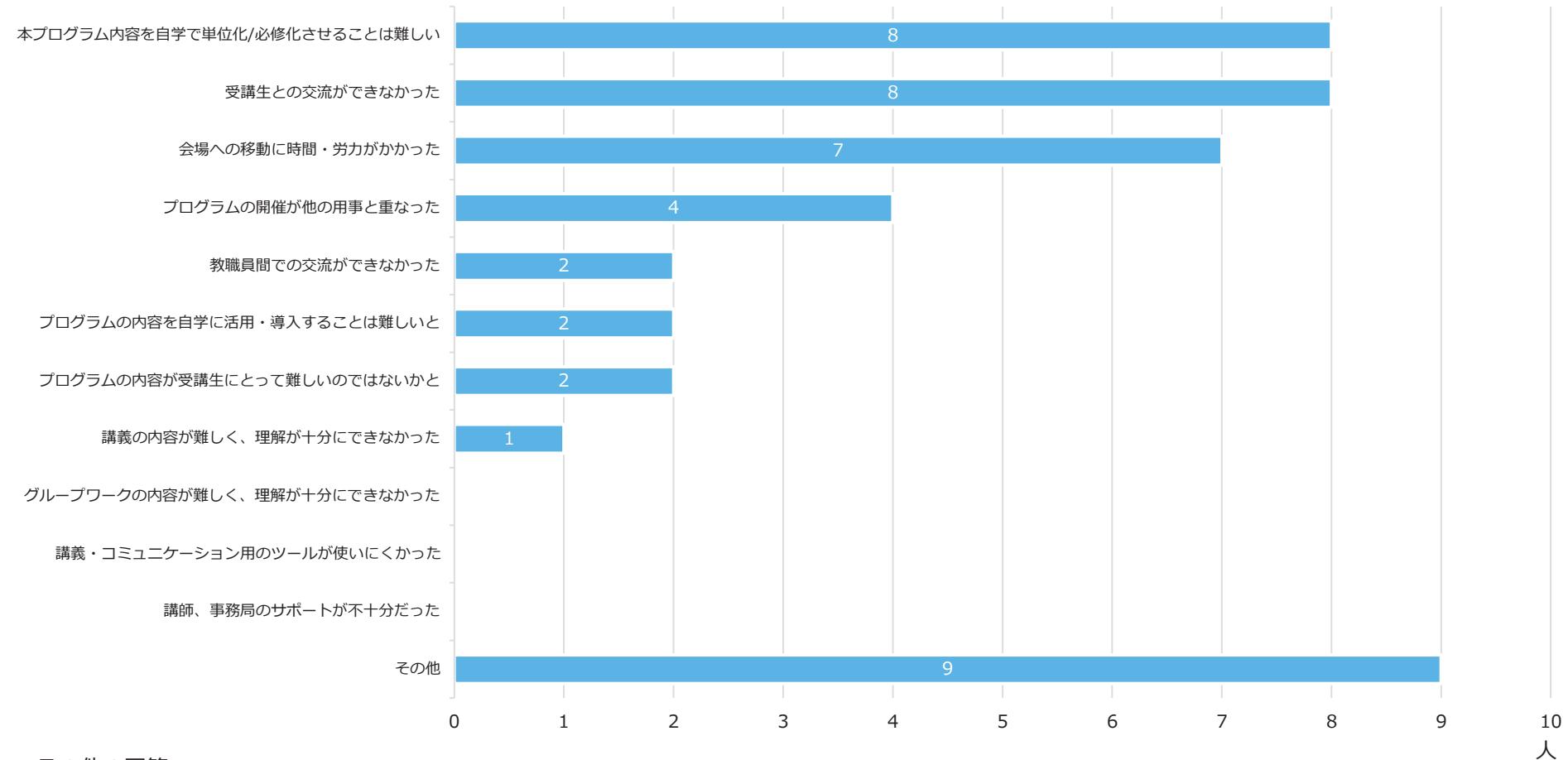
- ✓ プログラムを自学で展開することへ難しさや受講生（学生）との交流不足を改善点として指摘する方が多かった
- ✓ 教職員であっても、会場までの移動時間へ不満を持つ方が一定数みられた

プログラムを通じて改善が必要な点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



その他の回答

- ✓ 日曜日の入館の段取りは改善してほしい
- ✓ 繰り上げ当選後にやっぱりだめとメールが来た
このような不備をなくしてほしい

- ✓ 学生の事前学習を徹底してほしい

(N=28)

自学でアントレ教育を実施する際に求める支援

- ✓ ノウハウ、コンテンツ、教職員間の連携についてコメントが見られた

自学でアントレ教育を実施する際に求める支援について

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

ノウハウの提供

- 外部専門家の関与や助言・相談
- アントレ教育に関する先行研究事例の提供
- 基本的な運営のための事務局機能（講義環境の準備、アナウンス、出欠確認等）
- 効果的なITツールの活用事例・方法（グループワーク、質疑応答、宿題提出等）

教育コンテンツの提供

- 豊富な講義関連コンテンツ
- 教育効果測定やアンケートの設計
- 受講生と協働でグループワークに取り組む機会
- 受講生へのメンタリングやオフィスアワーの設置

教職員間の連携

- 教職員間の意見交流の場の設置
- FDプログラム等の学びの機会の設置

その他

- 国からの補助金（少額で良いので小規模私学でも申請できそうなもの）
- 海外事例の紹介

アントレ教育を自学で展開する際の不安事項

- ✓ 教職員の人材不足、受講者獲得、学内での理解等の不安事項があがった

アントレ教育を自学で展開する際の不安点について

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

教職員人材の不足

- 将来的に全学生を対象としたアントレプレナーシップ教育を行う場合、その担当教員は少なくとも各学部に必要となる。しかし、アントレ教育が可能な教員が不足している。
- アントレ教育専門の教員が不在のため、特定の教員負担は持続可能性があるか。
- 教育負荷が高い中、新しい試みをどこまで展開できるか。

受講生獲得の不安

- 学生にアントレ教育の動機付けができていない
- 学生により学ぶ姿勢にレベルの差がある
- 起業経験がないため、エピソードや信頼性がないこと。
- スタートアップを希望する学生への詐欺的な勧誘をどう防ぐか
- どのような生徒を対象にするか、募集をどのようにかけるか、プログラムデザインをどのように行うか。
- 起業実績が少ない大学の上、単位にもならない自主的な講座に、どれだけの参加者を確保できるか。

学内理解の不足

- 大学側の理解を得られるか
- 現在シラバスで記載されている内容を変更することに対する教務課等からの意見
- 既にカリキュラムの余白がない中で、どのように実施していくのがよいか
- 大学執行部の理解や教養教育院のミッションとの整合性を図る必要性

その他

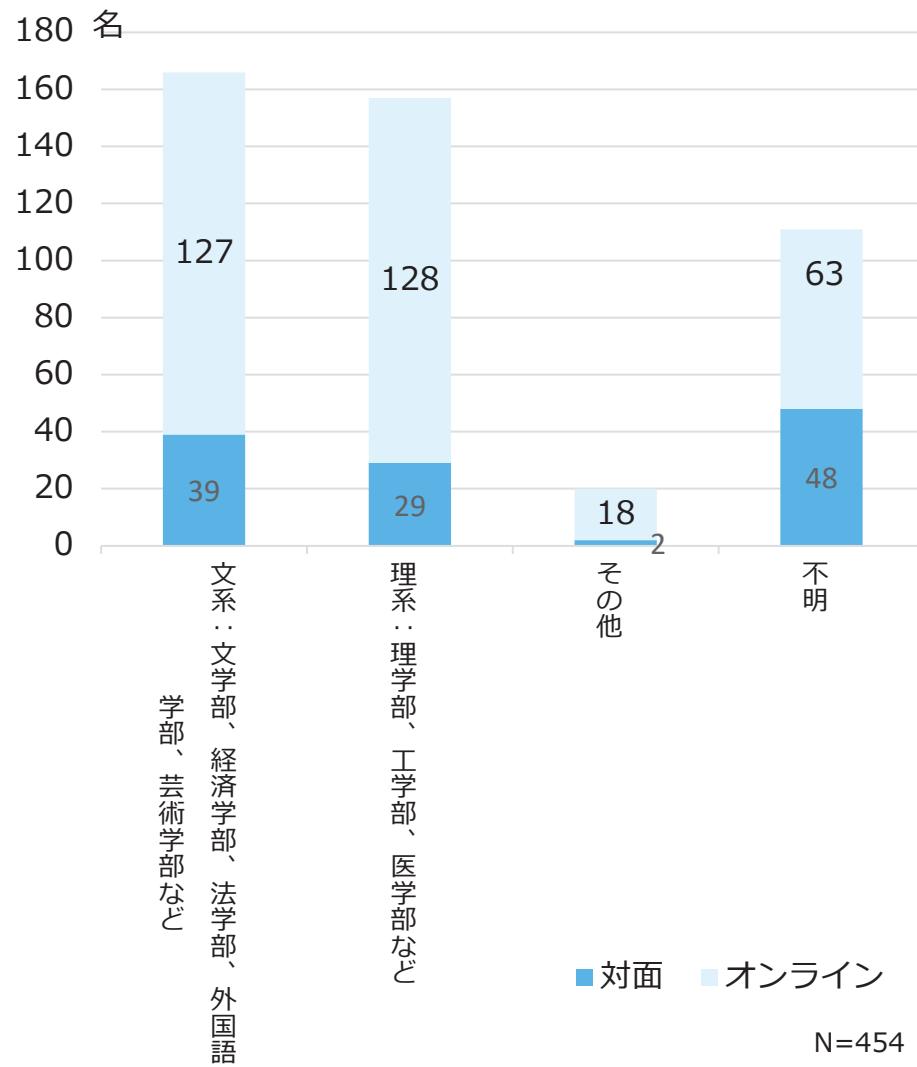
- 全学科融合をどのように実現できるか

特別講演 学生向けアンケート

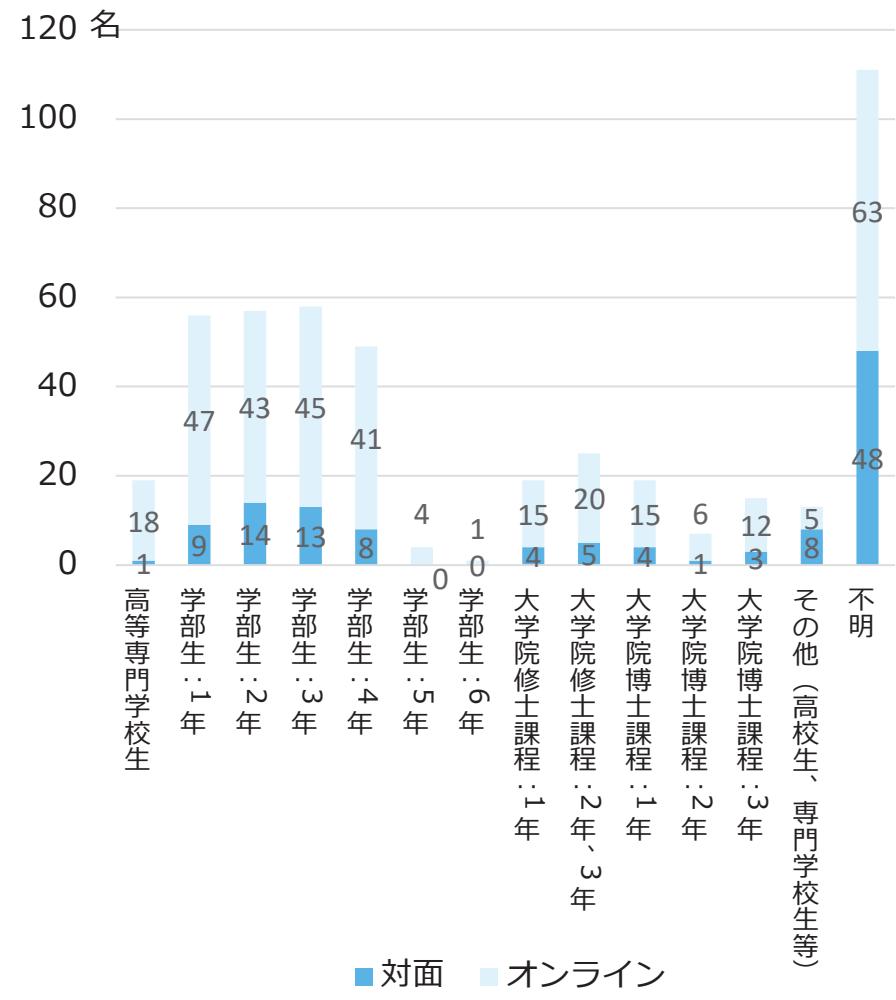
特別講演 アンケート結果（学生の学問系統・学年）

✓ 文系学部の学生が多かった。また、学年別で見ると学部1年～3年が半数以上を占めていた

申込者の学問の系統について



申込者の学年について



特別講演 アンケート結果（学生のプログラム満足度・再参加意向）

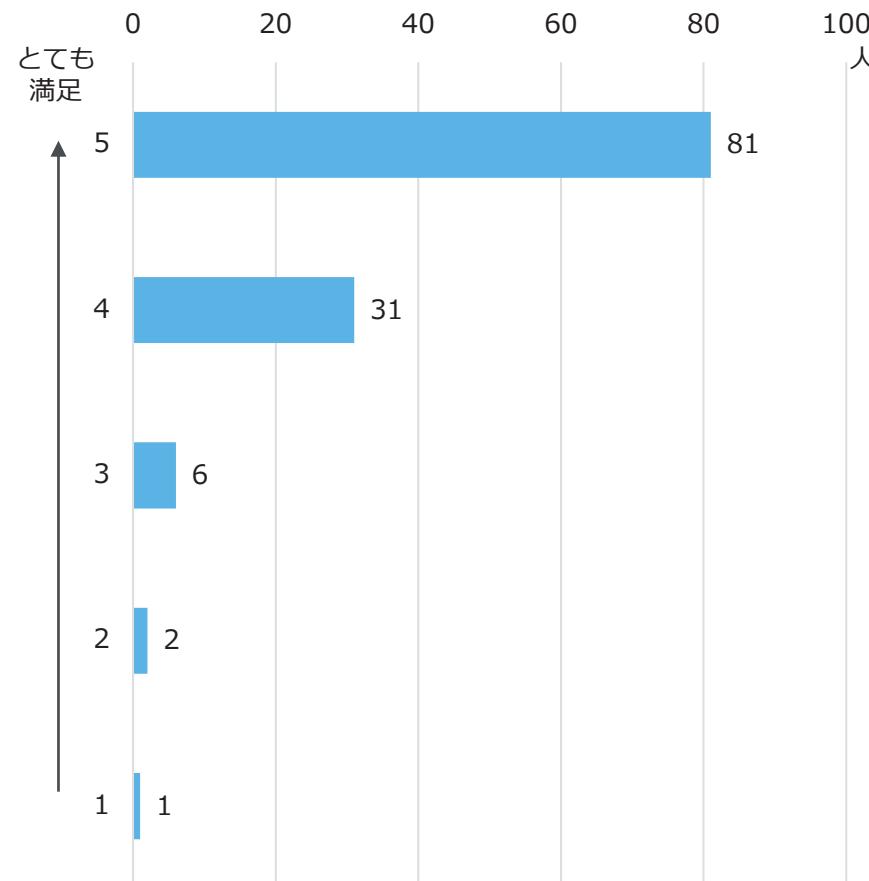
✓ 特別講演の満足度が非常に高く、再参加意向も高い回答を得た

学生アンケート

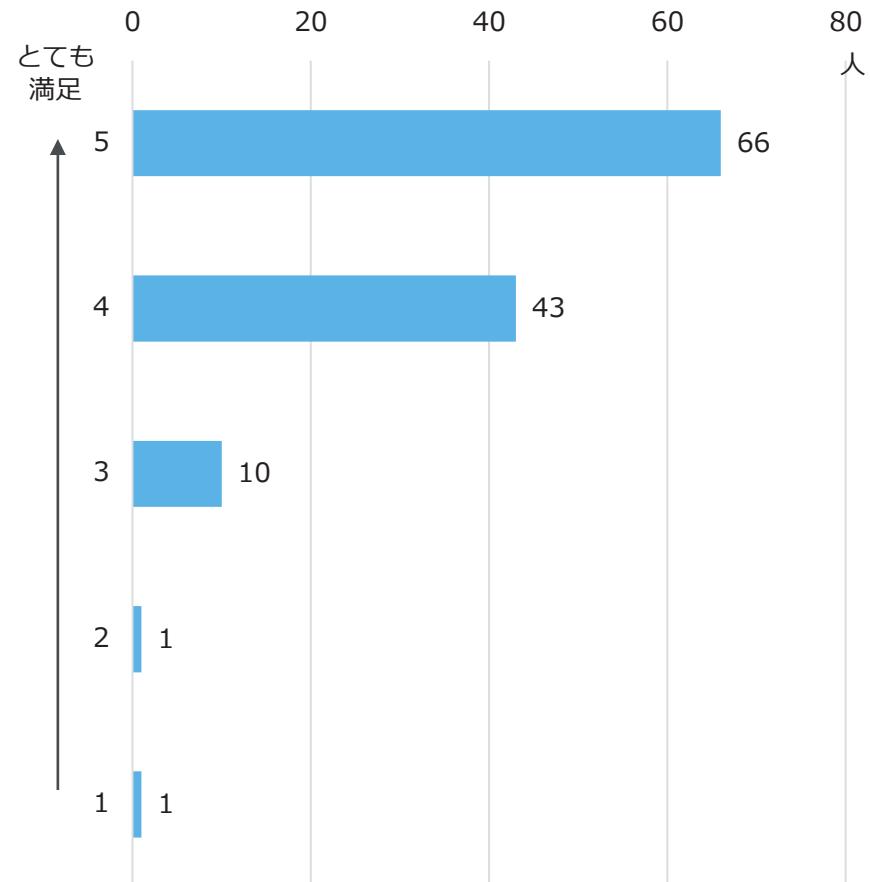
教職員アンケート

FD教職員アンケート

プログラムの満足度について



再参加意向度



N=121

特別講演 アンケート結果（プログラムの改善要望）

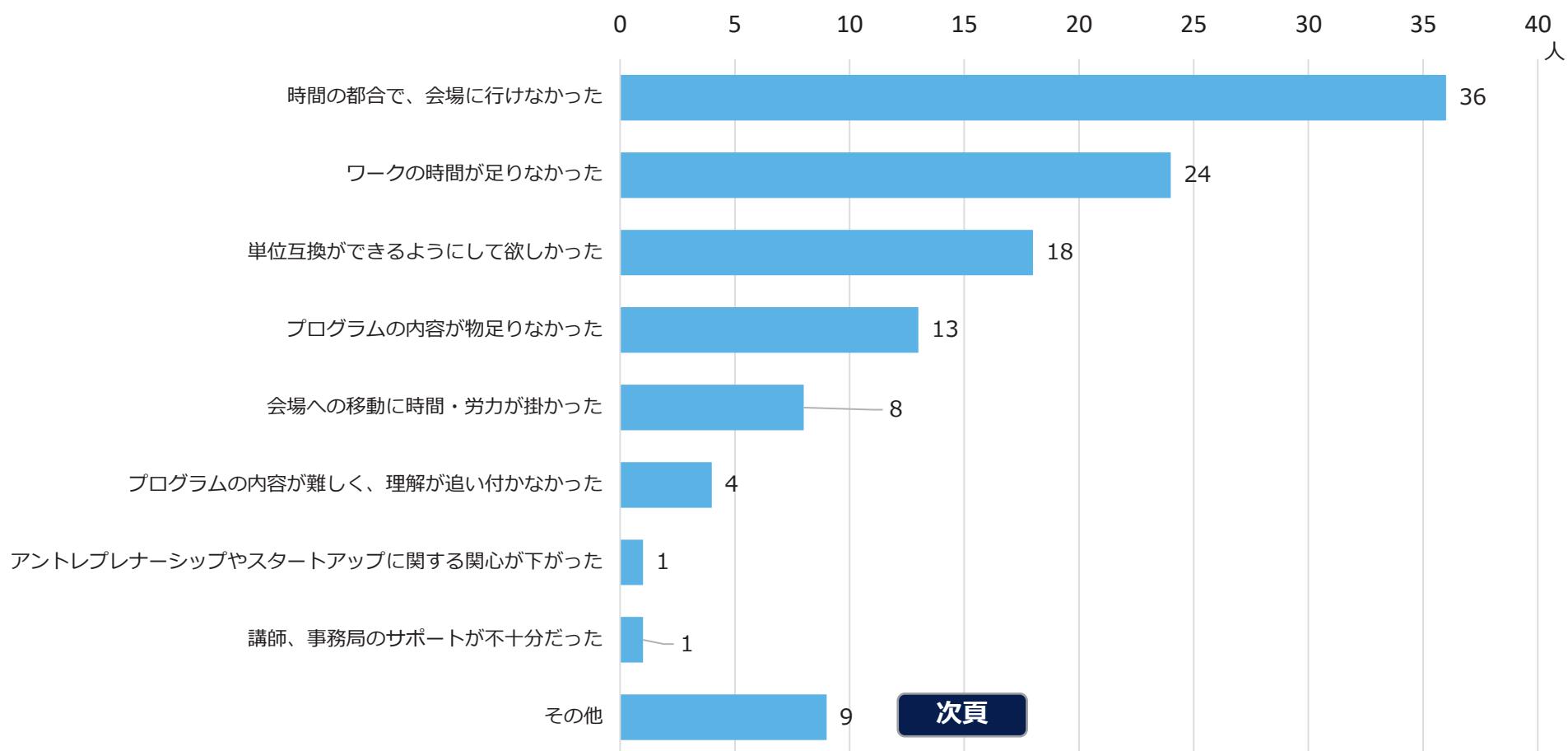
- ✓ 対面開催としたのにもかかわらず、現地参加ができなかった点について不満が見られた

本プログラムの改善が必要な点について（複数回答）

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



次頁

N=121

特別講演 アンケート結果（プログラムの改善要望）

✓ オンライン参加者がプログラムに参加しにくかった点について、改善提案が集まりました

改善が必要な点について（複数回答） その他の回答まとめ

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

オンライン交流 に関する意見

- ・オンライン参加であっても、交流ができるようにしていただきたかった
- ・オンラインでの参加者も他の参加者とつながれるようにしていただきたい
- ・ブレイクアウトルームを活用したオンライン同士での交流ができればもっと次に活かすことができると感じた
- ・オンラインの人たちも質問や発現ができる機会をもう少し作っていただきたかった
- ・今度はオフラインで参加できたらよいなと思った

特別講演 アンケート結果（望ましいプログラムの内容・形式）

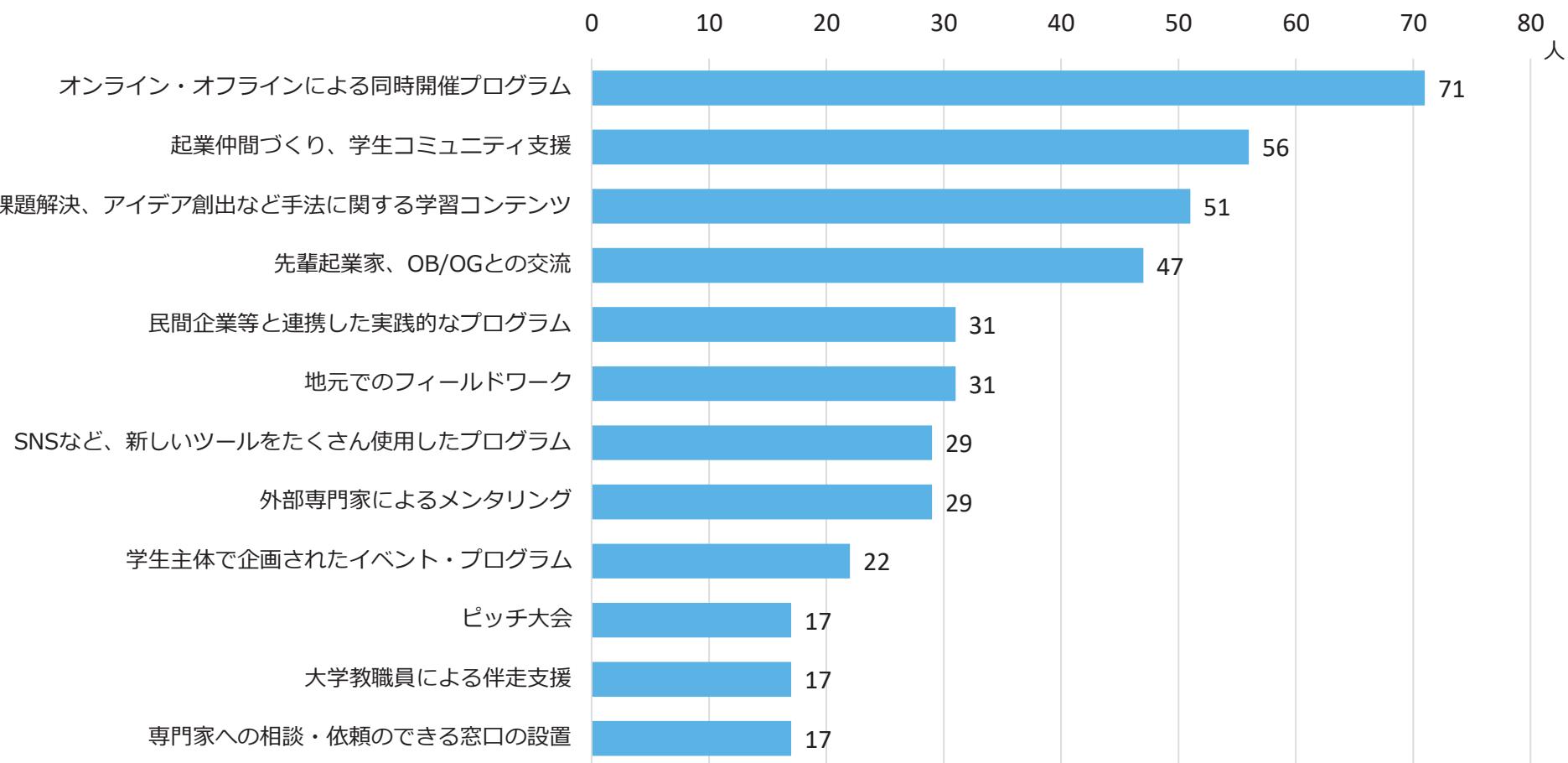
- ✓ 開催形式としては、オンライン・オフラインによるハイブリッド開催を希望する回答が多かった
- ✓ プログラム内容としては、起業仲間づくりや起業家との交流、課題解決手法等に関する学習コンテンツへの回答が多かった

望ましいプログラムの内容・形式

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



N=121

特別講演 アンケート結果（情報提供を求めるもの）

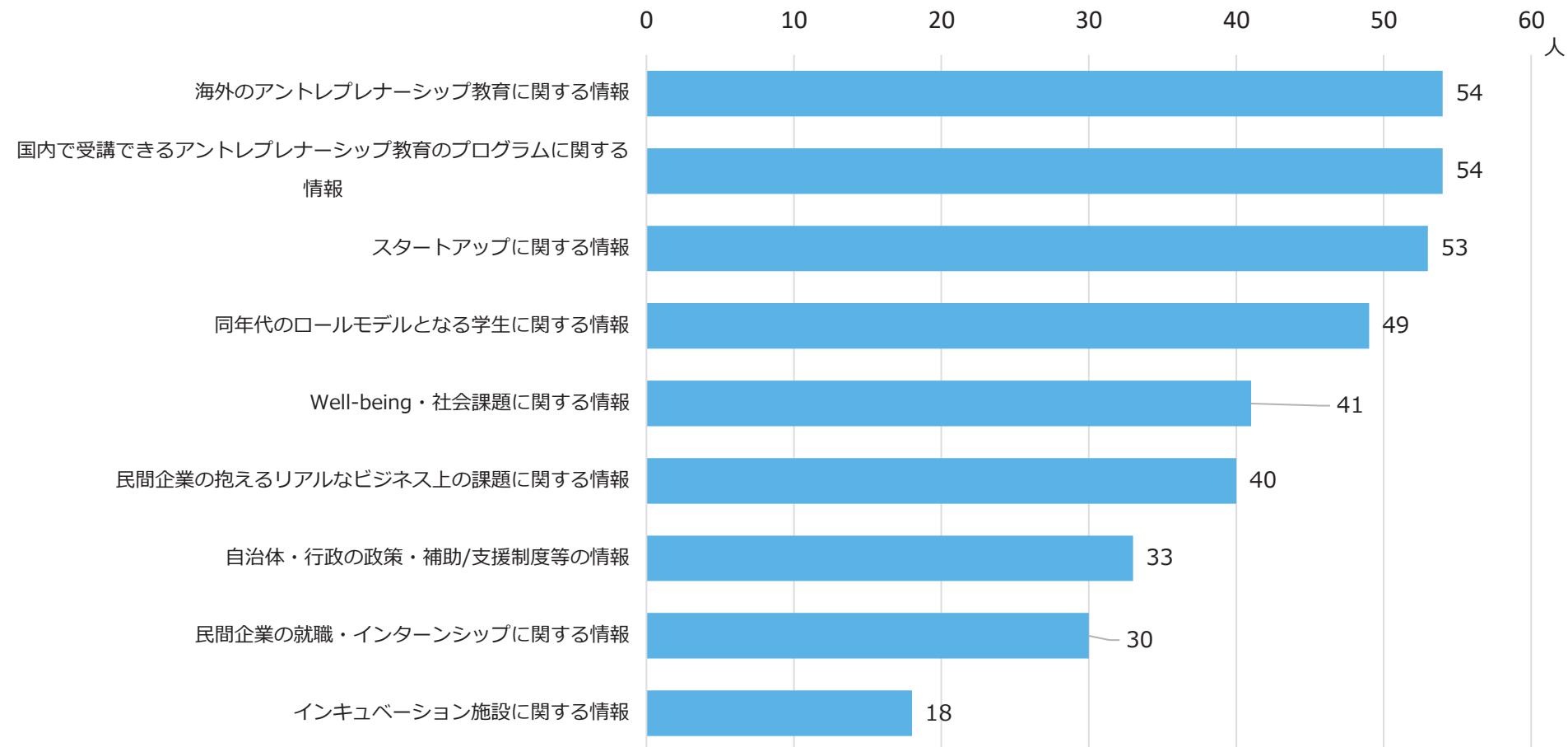
- ✓ 国内外のアントレ教育に関する情報を求める学生が回答者の半数弱存在している
- ✓ スタートアップや同年代のロールモデルとなる学生に関する情報を求める学生も存在している

受講後の学びを活用するための情報提供

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



N=121

特別講演 アンケート結果（望ましいコミュニティ）

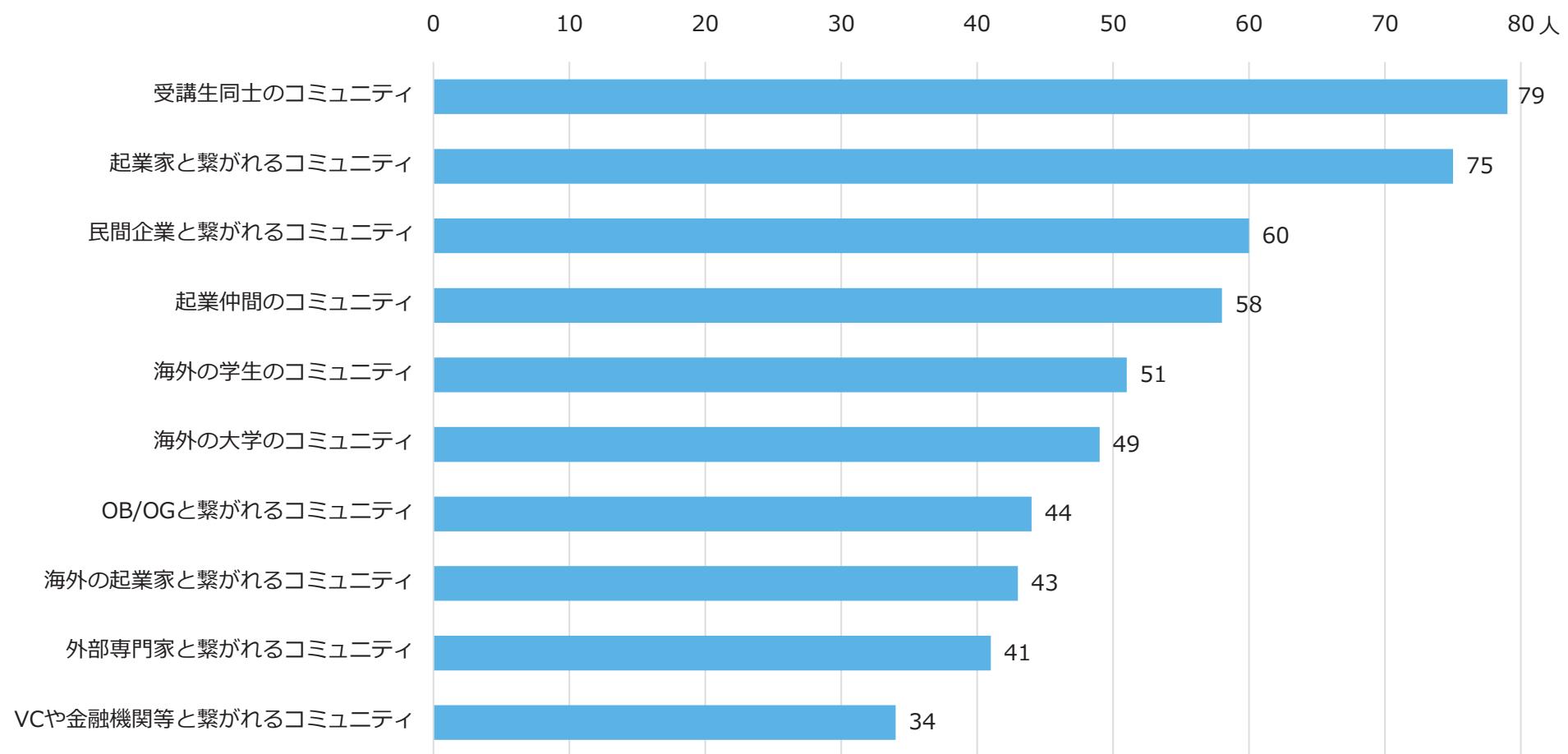
- ✓ 受講生同士のコミュニティや起業家とつながることのできるコミュニティへの回答が多かった

望ましいコミュニティ

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



N=121

特別講演 アンケート結果（今後取り組みたい活動）

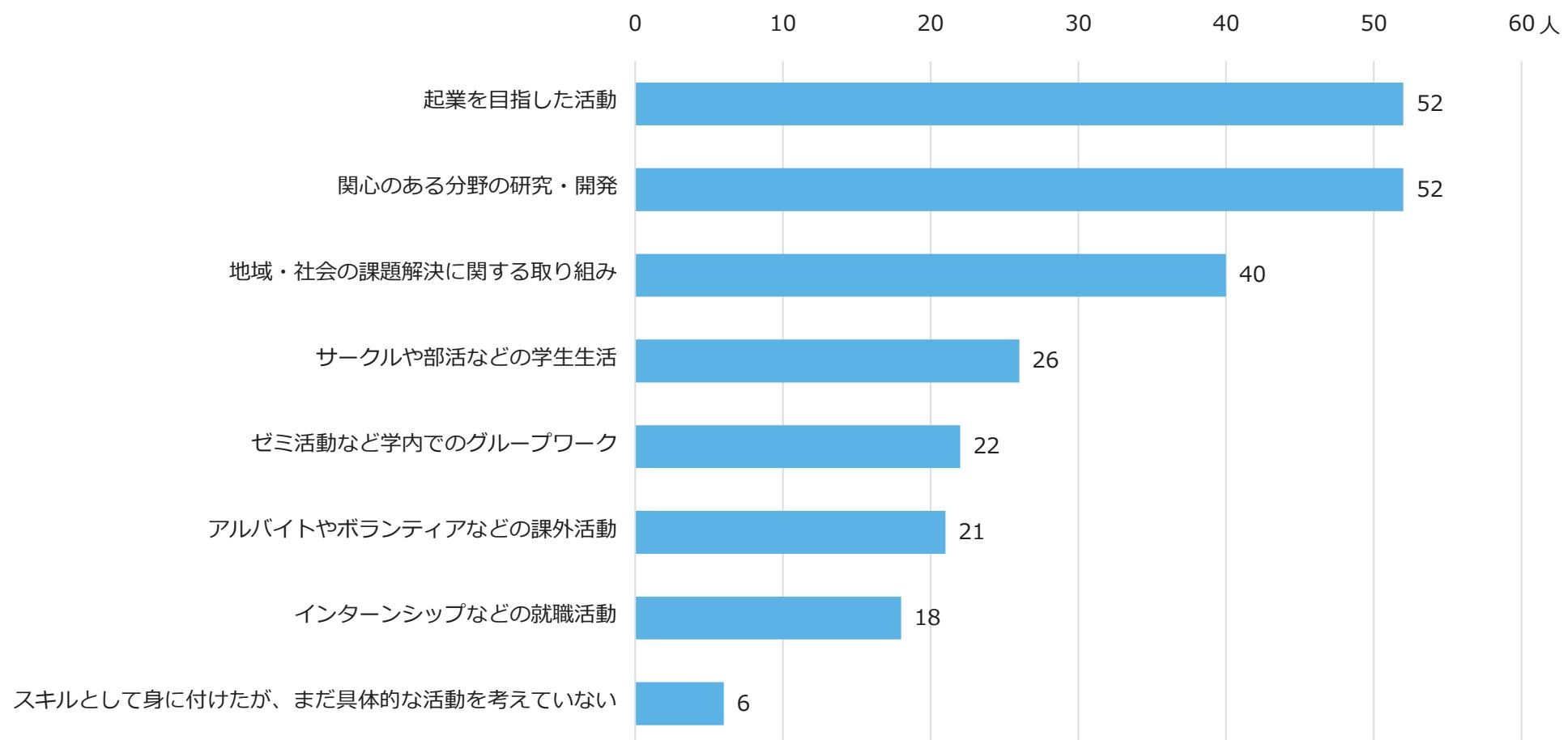
- ✓ 起業を目指した活動や関心のある分野の研究・開発に取り組みたいと回答した学生が多く存在した

今後どのような活動がしたいか

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



N=121

特別講演 アンケート結果（プログラム受講前後の心境の変化）

- ✓ アントレプレナーシップという領域そのもののへの興味・関心、起業に限らず積極的に行動に移したいという意欲、仲間との交流を深める点についてのコメントが多く挙げられた

プログラム受講前後の心境の変化

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

学問的興味

- アントレプレナーシップが必ずしも起業することだけに限らないことを知り、MBAで学ぶ組織行動論を合わせて勉強したいと思った
- 自分自身をしっかり知ることは意外と難しいですが、今一度向き合ってみようと思った
- バブソン大の山川先生の講義を聴講しに行こうと思いました

行動変容

- アントレプレナーシップについてこの受講前は何も知らなかったが、今回の講義を通してそれがどういうものであるか理解できた
- 何か新しいことを始める際の心構え等を知ることができ、何か行動を起こし、失敗をして、そこから学ぶことこそが重要であると理解したので、これからは色々なことに積極的に行動していきたいと思う
- ビジネスアイディアが思いついても、すでに誰かがやっているんだろうな、とか自分の力で変えられるわけがないと頭の中で否定してしまっていたが、プログラムを受講し、失敗を恐れずに小さなことから毎日アクションを起こし続けようと思った
- プログラムを受講して行動への敷居が低くなったように感じた

交流意識

- 起業する精神を以前から持っていたが、一人で何でもする精神が強く行動に躊躇していた。受講で同じ思いを持った同志を見つけるためにより多くの人と関係を持っていきたいと思うようになった
- 受講を経て、多様な人と積極的に交流し、自分のやりたいことを常に探求・挑戦していきたい
- 受講を通して、自分のしてみたいことに仲間を巻き込んで挑戦してみたいと思った

特別講演 教職員・民間企業向けアンケート

特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等のエリア）

- ✓ 教職員の申込はエリアに関わらず全体的に来ているがほとんどがオンラインであることがわかった。また民間企業等の申込は、東京が半数以上を占めており、対面での申込が多かった

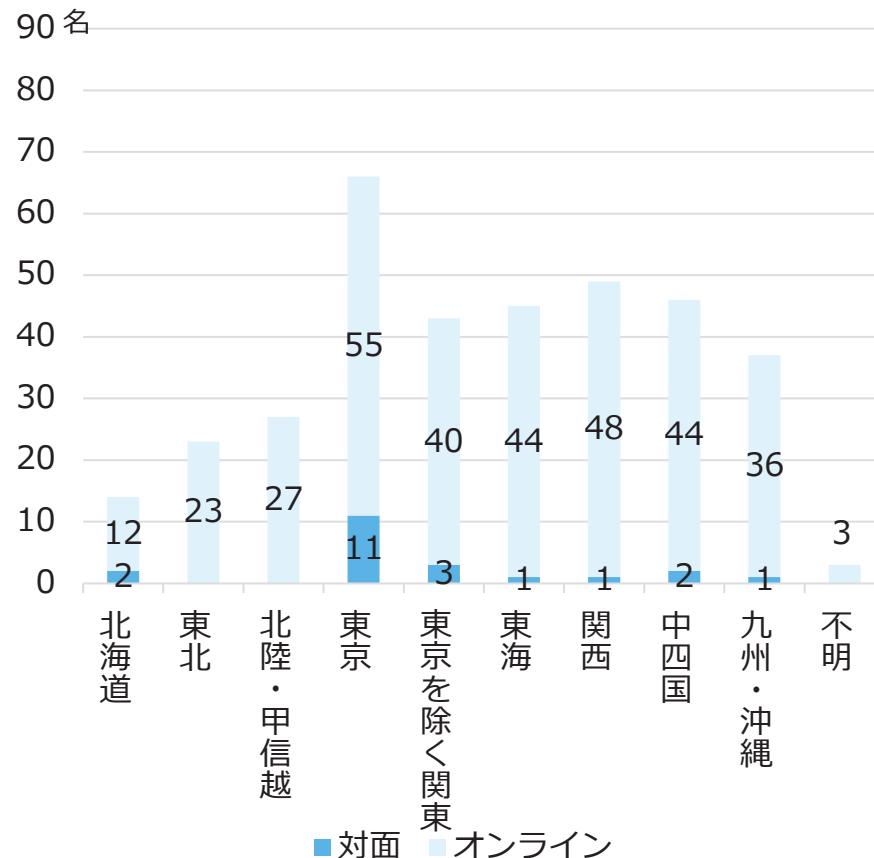
申込者の所属学校の都道府県について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート

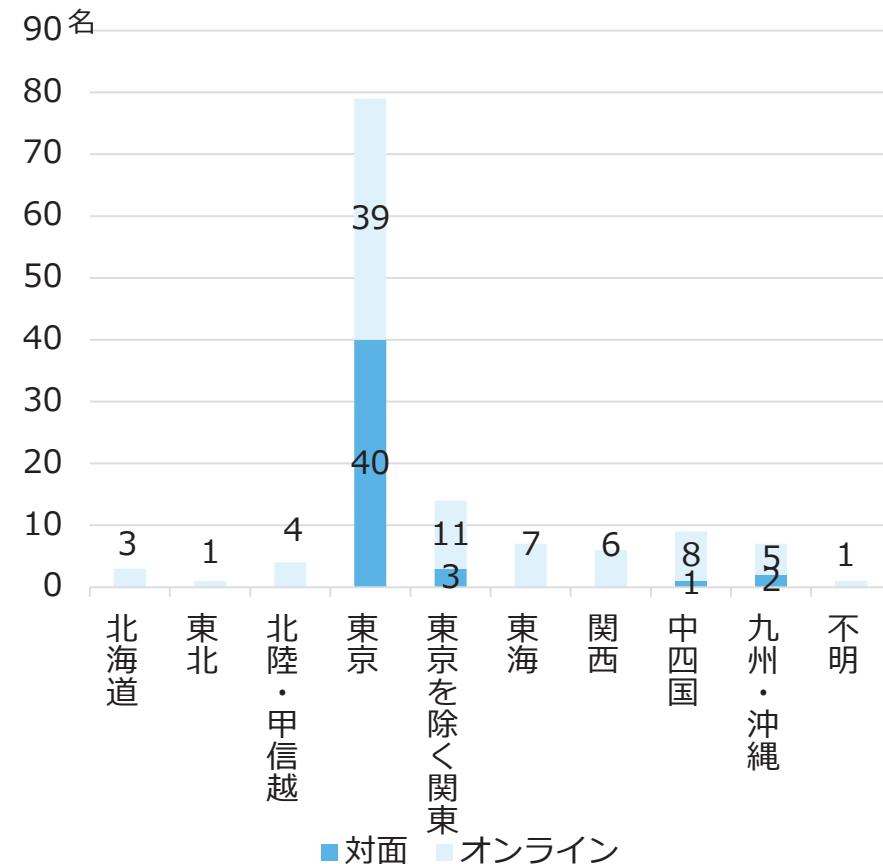
教職員



(N=353)

※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県／
北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県／
関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

民間企業等



(N=131)

特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等の性別）

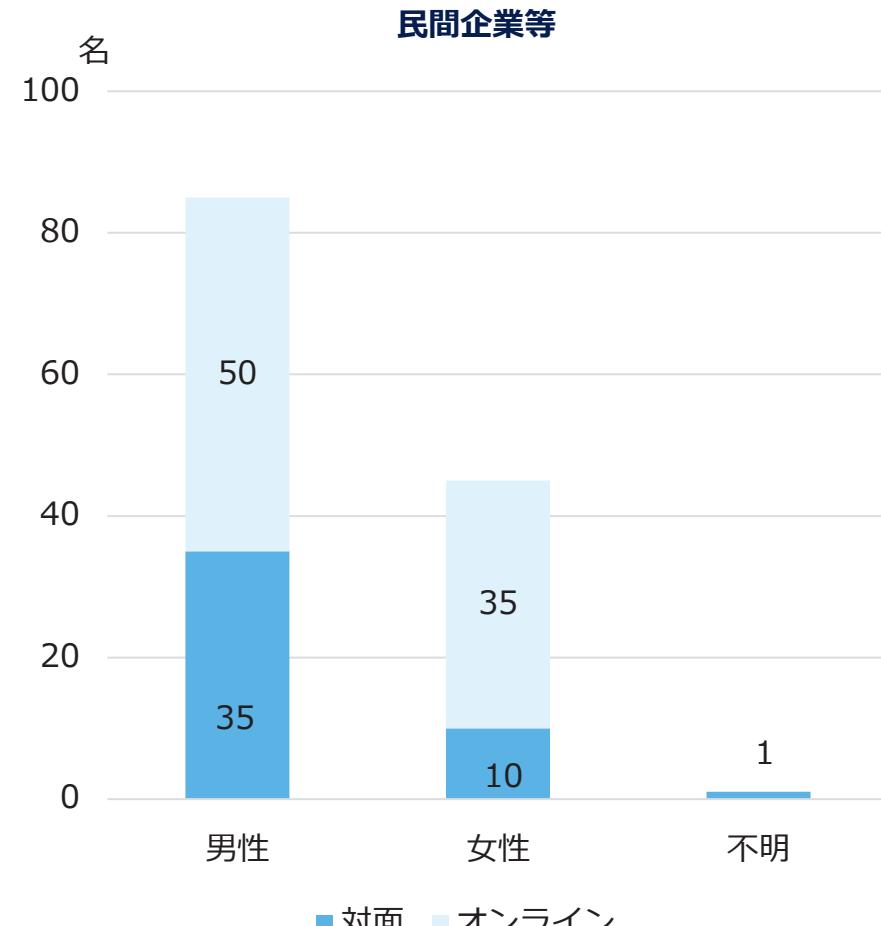
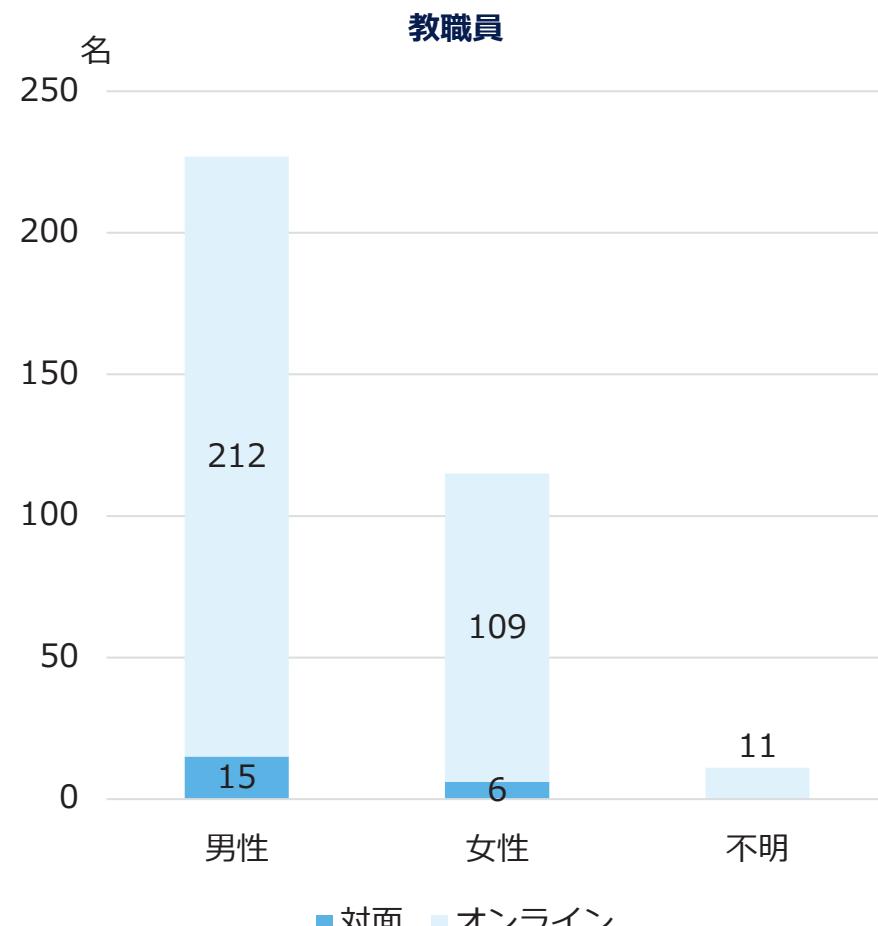
✓ 教職員および民間企業等の人ともに男性の申込が多かった。

申込者の性別について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等の満足度）

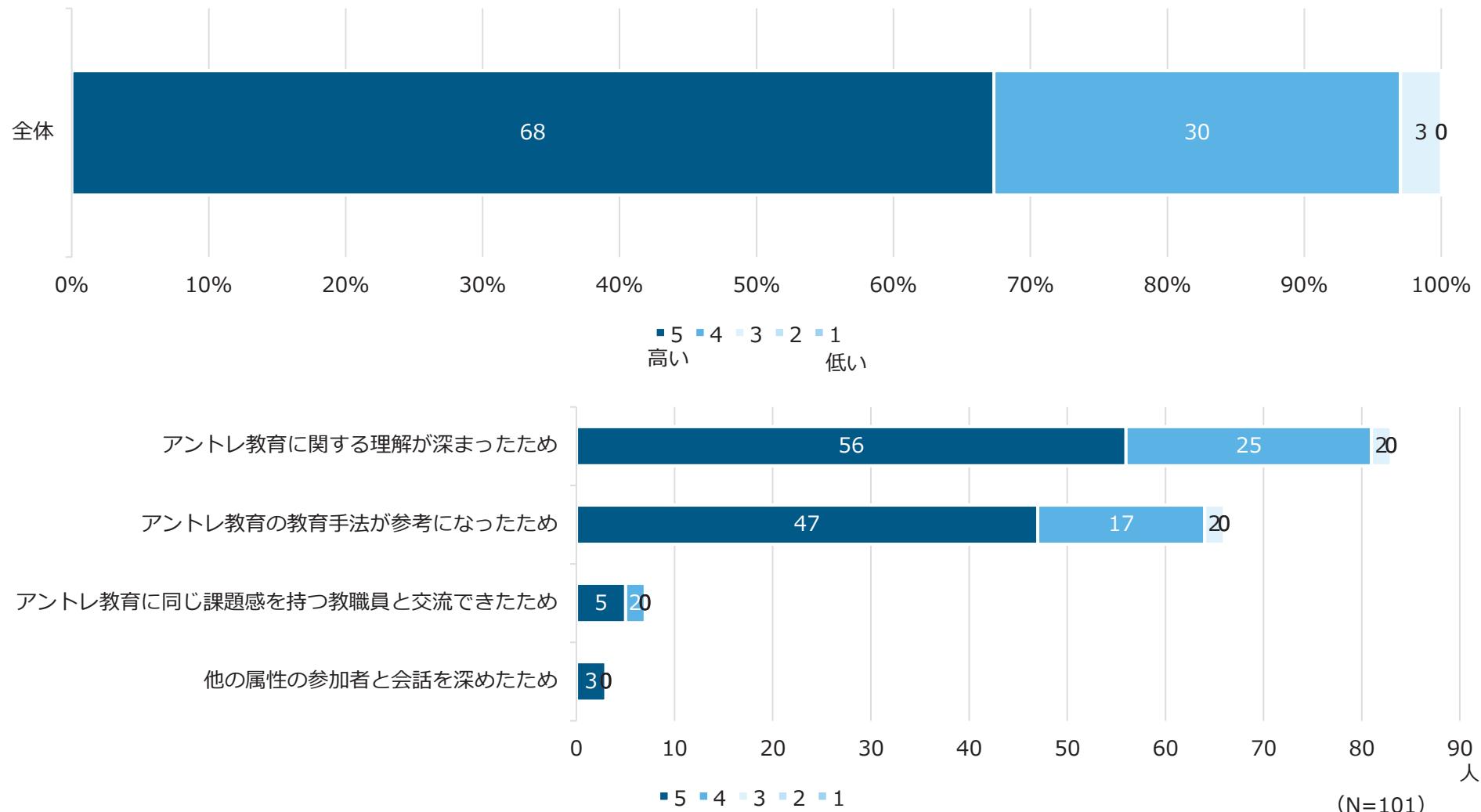
- ✓ ほとんどの教職員が特別講演に満足していた
- ✓ アントレ教育に関する理解が深まったこと、アントレ教育の教育手法が参考になったことに高評価が集まっていた

当プログラムの満足度についてとその理由

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等の感動体験）

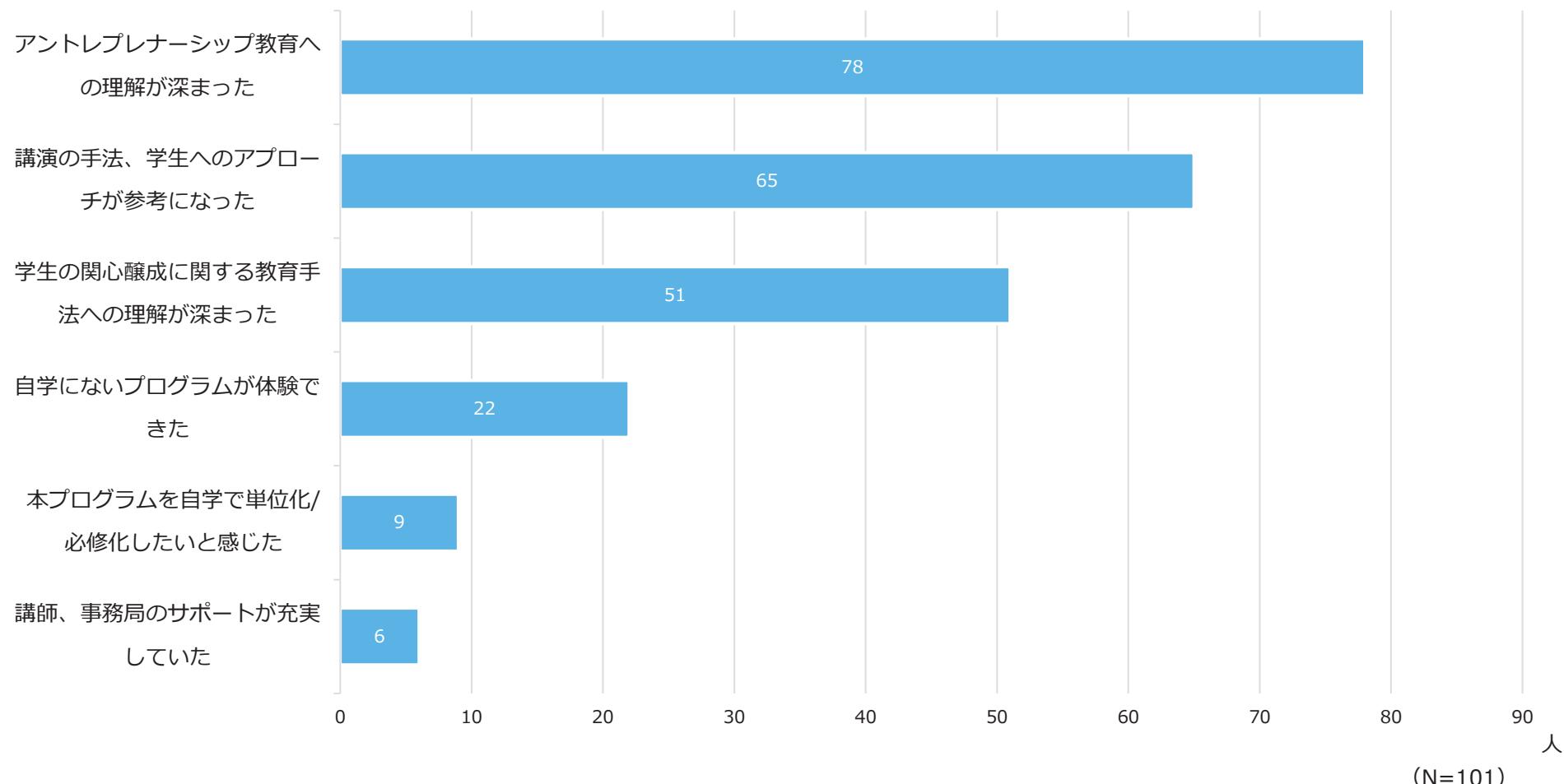
✓ アントレ教育への理解が深かった点や講演の手法、学生へのアプローチが参考になったと評価する教職員が多く見られた

感動体験について

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等の良かった事項）

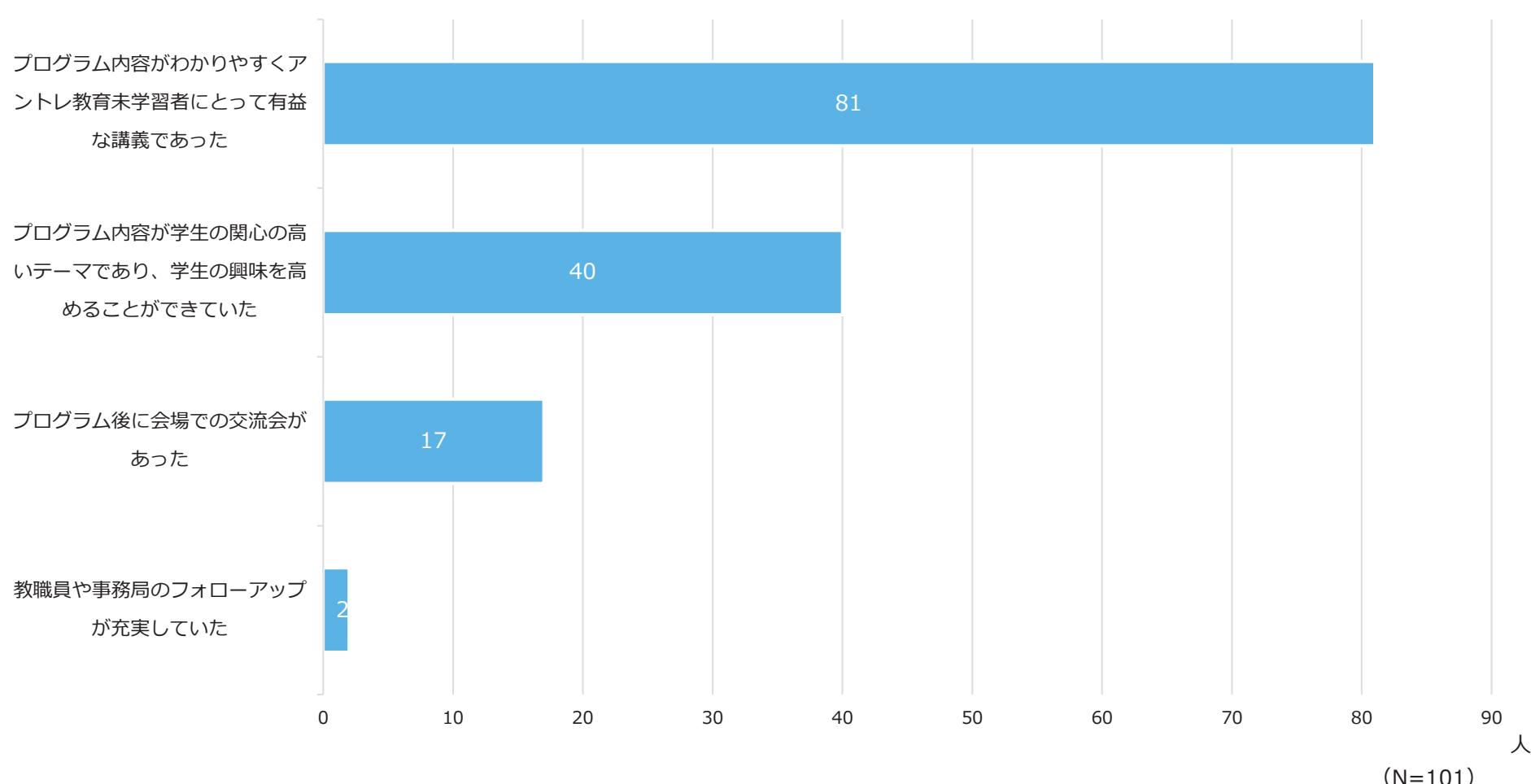
- ✓ アントレ教育未学習者にとって有益な講義である点を学生へのメリットとして指摘する教職員が多かった

学生が受講する上で有益だと思う点

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等の改善点）

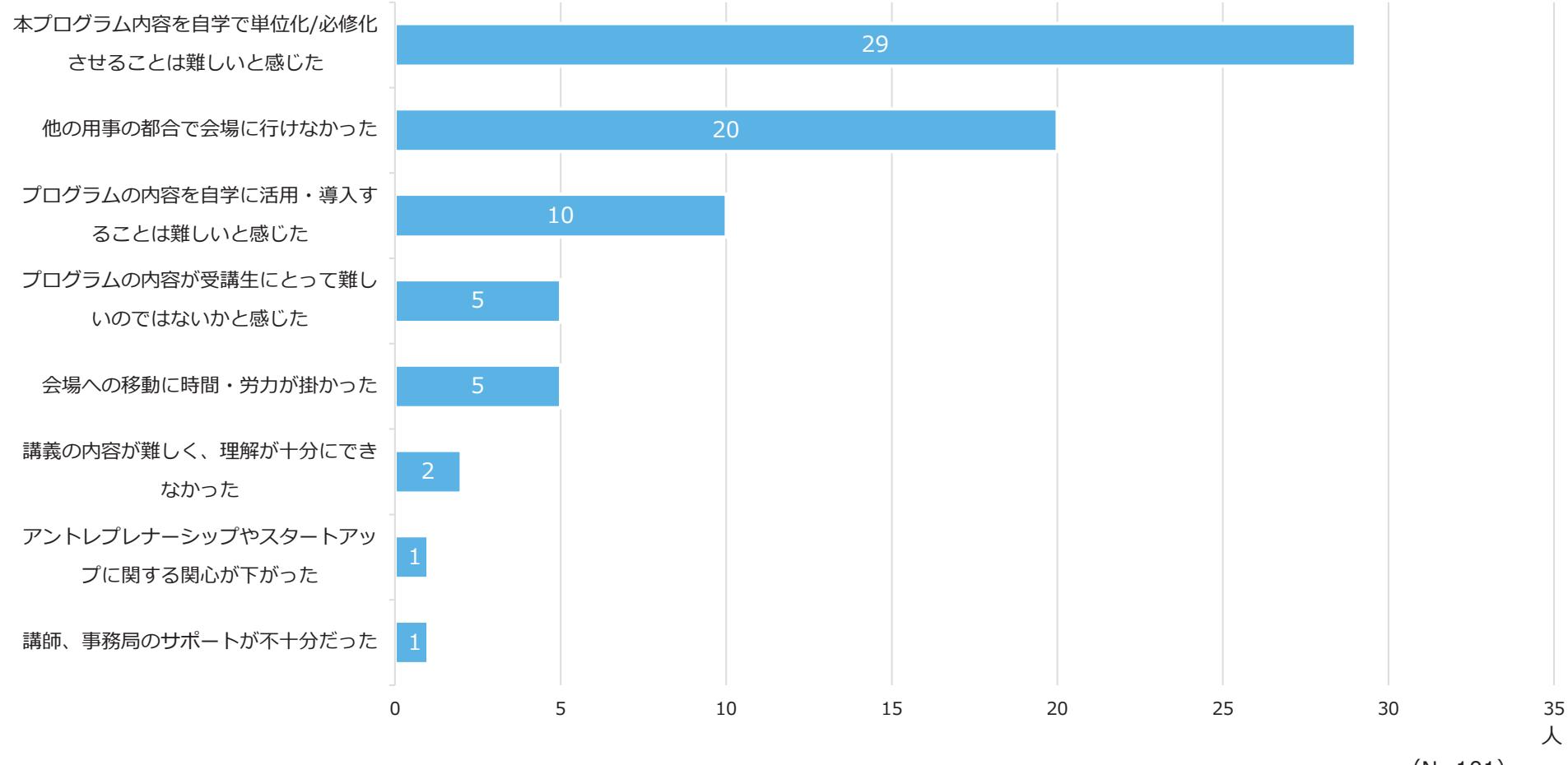
- ✓ プログラムの内容を自学で単位化したり、自学で活用することが困難である点を指摘するコメントが多くみられた

本プログラムの改善点

学生アンケート

教職員アンケート

FD教職員アンケート



特別講演 アンケート結果（教職員・民間企業等のプログラム受講前後の心境変化）

- ✓ アントレ教育に対する理解度が向上したというコメントや、アントレ教育の効果、必要性を認識したため、自学での取組につなげていきたいといったコメントが多く見られた

プログラム受講前後の心境の変化

[学生アンケート](#)[教職員アンケート](#)[FD教職員アンケート](#)

理解度の向上

- アントレプレナーシップについて全く理解していなかったが、大変分かりやすく有意義であった。学内で理解している教職員は少ないと思うので学内での普及を進めていきたい
- アントレ教育のアプローチの仕方について、具体的なイメージを持つことができた
- アントレ教育において自己理解、行動、reflectionの重要性を考えるきっかけとなった
- アントレ教育への関心度が不明であったが、全国的な関心の高まりがあることがわかった

効果の実感

- 受講前からアントレ教育の必要性を感じていたが、受講後にやはりアントレ教育の必要性を確信するに至った
- 学生へのスタートアップ意識の醸成には効果がある良い内容であると思う。学生の起業が最終目的ではないという講師の主張には全く同意見だ
- 高等学校の探求関連の授業や高大連携に現在実施中のEdge-primeを連携させて、学生の起業意識のさらなる醸成に取り組みたい

実践への意欲

- 自分は何がしたいのかそしてどんな行動をとるのか共用できる失敗の範囲はと自問自答がうまれ、アクションを起こそうという想いが強くなりました。
- 受講前はアントレ教育について言葉を聞いたことがある程度であったが、受講を経て所属している高校の商業の授業でも実践してみようと思った
- アントレ教育に関して、ほとんど知らない部分が多くあったが、今回の講演を受けて必要な姿勢・マインドを学ぶことができたので、すぐに行動に移していきたい

参考：2022年度全国プログラム-学生プログラムの概要

- ✓ 2022年度の全国プログラムは2つのコースを開催した

2022年度全国プログラム概要

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
事業背景・目的	今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレ教育を推進しています。アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、全ての人が身につけるべき資質であると考えています。
募集対象	全国の大学生・大学院生・高等専門学校生（高校生も数十名程度参加可能）
開催形式	オンライン会議ツールZoom、オンラインコミュニケーションツールTeams
受講料金	無料（通信費等は自己負担）
その他	全日程を参加した受講者に受講修了証発行
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/

プログラム概要

コース1

社会課題
テーマコース
2023年1月7日
(土) 10時-17時

コース2

ビジネスでの起業
テーマコース
2022年12月26-
28日13時-17時

社会問題の解決において思考の発散と収束を繰り返してアイデアを創出するグループワークと創出したアイデアをソーシャルビジネスに繋げる考え方を学ぶ

講師：神戸大学 鶴田宏樹先生

ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つスキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ
今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人を対象とした授業

講師：東京大学 馬田隆明先生

公式WEBサイト



リーフレット



参考：2022年度全国プログラム-FDプログラムの概要

- ✓ 事前・事後の講義と授業参観を通して、オンラインで行われた授業をオンライン環境で提供するための考え方やノウハウを身に着けるためにFDプログラムを実施した

2022年度FDプログラム概要

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム-FDプログラム	学生	FD								
事業背景・目的	不確実性が増す社会環境の中では、アントレプレナーシップが必要となる状況は増えてきています多くの学生がアントレプレナーシップを身に着けるには、アントレプレナーシップを教えられる教員も増えなければなりません。本講義(FD)を通して、アントレプレナーシップを伝えられる方を増やしていくことを目的とします	事前講義 12月21日(水) 18時-19時30分	事前・事後の講義と全国プログラムの授業見学を通じ、オンラインで行われた授業をオンライン環境で提供するための考え方やノウハウを身に着けるためのもの								
募集対象	アントレ教育の実施に関心のある大学等の教職員	授業参観 12月26日-27日	1.事前講義では、全国アントレプレナーシップ教育講義の設計意図を説明 2.授業参観を通して、実際の授業の様子を視聴 3.事後講義では、授業実施の様子を振り返り、授業を行うための設計の練習を実施								
FD受講者 受講後の 到達地点	受講した先生方が、コースで提供する資料を使って、自分たちの学校で2~3日の同コースが実践できること	事後講義 12月28日(水) 17時30分-19時30分	FD終了後、各教育機関において同講義を展開頂くための資料セットを提供 講師：東京大学 馬田隆明先生								
開催形式	オンライン会議ツールZoom、オンラインコミュニケーションツールTeams										
受講料金	無料（通信費等は自己負担）										
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/										
プログラム概要		公式WEBサイト（コース紹介）									
		 <p>Course2 東京大学・馬田 隆明 授業の範囲に必要なスキルと行動指針を実践を通じながら、アントレプレナーシップを身につけ、FDプログラムを実施します。 【第2コースは3日間実施です】</p> <table border="1"> <tr><td>1回目</td><td>マネジメントスキル、データ分析、チームワークの基礎知識</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>課題マネジメント、課題と問題解決、アントレの基礎知識</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>マーケティング、リサーチ、データ分析の実践</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>マネジメント実践</td></tr> </table> <p>このプログラムは、マネジメントスキル、データ分析、チームワークの基礎知識、課題マネジメント、課題と問題解決、アントレの基礎知識、マーケティング、リサーチ、データ分析の実践などを学ぶための4回のセミナー構成です。</p>		1回目	マネジメントスキル、データ分析、チームワークの基礎知識	2回目	課題マネジメント、課題と問題解決、アントレの基礎知識	3回目	マーケティング、リサーチ、データ分析の実践	4回目	マネジメント実践
1回目	マネジメントスキル、データ分析、チームワークの基礎知識										
2回目	課題マネジメント、課題と問題解決、アントレの基礎知識										
3回目	マーケティング、リサーチ、データ分析の実践										
4回目	マネジメント実践										